

水俣病の経験を将来に活かした 地域構想と国際的情報発信のための水俣学研究拠点の構築

平成 27 年度～平成 31 年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究成果報告書

プロジェクト番号：S1591010L

令和 2 年 5 月

学校法人名：熊本学園

大 学 名：熊本学園大学

研究組織名：水俣学研究センター

研究代表者：花田 昌宣（社会福祉学部教授）

はじめに

水俣学研究センターは、2005（平成 17）年に設置され、原田正純先生を中心として、水俣学の構築を目指して研究調査、学内外の教育、社会貢献と情報発信に努め、発足してから 15 年が経過しました。本書は、2015（平成 27）年より 5 年にわたり実施された文部科学省の「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業：水俣病の経験を将来に活かした地域構想と国際的情報発信のための水俣学研究拠点の構築」の成果報告書です。

事業報告書としての性格として、当初の事業計画と目標をふまえて、得られた成果や達成度を社会に公表し、批判をあおぐことを課題として執筆しています。詳細な学術的成果や専門的な議論は、水俣学研究センターの刊行物や所属研究者が発表している成果物を見ていただきたいと思います。日常的な研究活動とその成果は『水俣学通信』や WEB ページ上に公開していますのでそちらも参照していただくようお願いします。

文部科学省には、報告書本文に加えて、過去 5 年間の水俣学にかかわる主要新聞記事なども資料として添付して提出いたしました。ご供覧いただきたいと思います。

この事業は、被害実態の解明、地域戦略の構築、資料の収集とそのデータベース化および国内外への情報の発信をとおして、水俣学の研究基盤を構築・強化していくことに重点を置いています。学内においては、学部や大学院と連携して、水俣学講義、フィールドワークや将来の研究者養成を行ってきており、また公開講座や公開セミナーなどによる私どもの成果の地域還元、水俣学ブックレットなどの刊行などによって成果公開も行ってきました。さらに、タイ、中国、韓国や台湾、カナダなどの研究機関や公害発生地域の NGO などとの交流も進めています。

地方私学においてグローバルな視点とユニークな方法に立って、地域に根ざし地域の課題に応える調査研究、そして水俣病という人類史上の出来事に対する取り組みとして、私どもとしての自負と反省はあるものの、本報告書を通して、社会の負託にどこまで応えることができたかは、大方のご意見を伺うこととしたいと思います。

まだまだ未熟ではありますが、さらに精進して水俣学の発展に努めて参りますので暖かいご支援を賜りますようお願いいたします。

2020 年 5 月 27 日

熊本学園大学水俣学研究センター長

花田 昌宣

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

**平成 27 年度～平成 31 年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究成果報告書概要**

- 1 学校法人名 熊本学園 2 大学名 熊本学園大学
- 3 研究組織名 熊本学園大学水俣学研究センター
- 4 プロジェクト所在地 熊本市中央区大江 2 丁目 5 番 1 号
- 5 研究プロジェクト名 水俣病の経験を将来に活かした地域構想と国際的情報発信のための水俣学研究拠点の構築
- 6 研究観点 研究拠点を形成する研究
- 7 研究代表者
- | 研究代表者名 | 所属部局名 | 職名 |
|--------|--------|----|
| 花田 昌宣 | 社会福祉学部 | 教授 |
- 8 プロジェクト参加研究者数 22 名
- 9 該当審査区分 理工・情報 生物・医歯 人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
花田 昌宣	社会福祉学部・教授	被害者補償・救済の制度分析と解決策の模索	研究の統括、水俣病被害の制度分析
宮北 隆志	社会福祉学部・教授	水俣病被害地域再構築の構想	副統括責任者、地域戦略の検討
中地 重晴	社会福祉学部・教授	土壌汚染調査、埋立地の水銀問題解決への提言	地域の環境汚染の把握と対策
井上 ゆかり	水俣学研究センター・特定事業研究員	水俣学アーカイブスの構築と国際発信	アーカイブ構築、連携
田尻 雅美	水俣学研究センター・特定事業研究員	水俣病患者の医療とケアのニーズ分析	水俣病患者の福祉的ケア
高木 亨	社会福祉学部・准教授	水俣病発生地域の地理的調査・分析	水俣病発生地域に関する地理的検討
萩原 修子	商学部・教授	語りを通じた被害者のサファリングの解析	水俣病被害者のナラティブ分析
東 俊裕	社会福祉学部・教授	障害法からみた被害者の復権の法的研究	被害補償と救済の法学的検討
藤本 延啓	社会福祉学部・講師	水銀が水俣に及ぼした影響の社会的考察	廃棄物と地域の社会史の検討
矢野 治世美	社会福祉学部・准教授	資料収集と分析	文献・資料データベース構築
高峰 武	熊本日日新聞社・論説顧問、水俣学研究センター・	収集資料の解析	ジャーナリズムと水俣病の連携

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

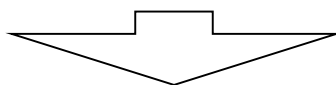
	客員研究員、 熊本学園大学・ 特命教授		
学外研究者			
下地 明友	水俣学研究センター・ 顧問 客員研究員	臨床をふまえた新たな水俣病 概念の呈示	水俣病の臨床医学と病の 人類学
頼藤 貴志	岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 疫学・衛生学分野・ 教授	国際的研究をふまえた水俣病像 の解明	水俣病の疫学的検討
除本 理史	大阪市立大学大学 院・経営学研究科・ 教授	被害補償と救済に関わる経済学 的解析	被害補償の経済学的検討
飯嶋 秀治	九州大学大学院・ 人間・環境学研究科・ 准教授	住民の語りと地域共生のあり方 の呈示	地域住民のナラティブと 地域の民俗検討
大久保 規子	大阪大学大学院・ 法学研究科・教授	国際法的視点から水俣病救済策 の検討	環境被害の国際法的検討
尾崎 寛直	東京経済大学・ 経済学部・准教授	水俣病がもたらした地域経済の 変容	地域経済と公害被害の 検討
磯谷 明德	九州大学大学院・ 経済学研究科・教授	水俣の基幹産業と労働生活の 分析	化学産業の労働経済学的 検討
森下 直紀	和光大学・ 経済経営学部・講師	水俣とカナダにおける地域環境 変容	自然環境の社会学的国際 比較
富安 卓滋	鹿児島大学大学院・ 理工学研究科・教授	海水及び底質の水銀の変化の 解析	地域の環境汚染の把握と 対策
山本 尚友	水俣学研究センター・ 客員研究員	資料・文献の蒐集とデータベース の構築	文献・資料データベース 構築
小林 直毅	法政大学・ 社会学部・教授	映像アーカイブネットワークの 構築	アーカイブネットワーク構築
(共同研究機 関等)			

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
障害法からみた被害者の 復権の法的研究	弁護士	東 俊裕	被害補償と救済の法学的 検討

(変更の時期:平成 27 年 4 月 1 日)



新

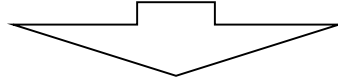
変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
弁護士	熊本学園大学 社会福祉学部・教授	東 俊裕	被害補償と救済の法学的 検討

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
資料・文献の蒐集とデータベースの構築	熊本学園大学 社会福祉学部・教授	山本尚友	文献・資料データベース構築

(変更の時期:平成 29 年 4 月 1 日)



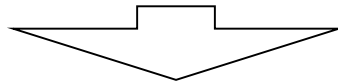
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
熊本学園大学社会福祉学部・教授	水俣学研究センター客員研究員	山本尚友	文献・資料データベース構築

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
水俣病患者の医療とケアのニーズ分析	水俣学研究センター研究助手	田尻雅美	水俣病患者の福祉的ケア

(変更の時期:平成 29 年 4 月 1 日)



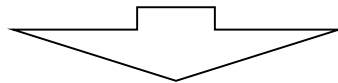
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
水俣学研究センター・研究助手	水俣学研究センター特定事業研究員	田尻雅美	水俣病患者の福祉的ケア

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
水俣学アーカイブスの構築と国際発信	水俣学研究センター研究助手	井上ゆかり	アーカイブ構築、連携

(変更の時期:平成 29 年 4 月 1 日)



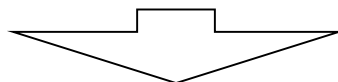
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
水俣学研究センター・研究助手	水俣学研究センター特定事業研究員	井上ゆかり	アーカイブ構築、連携

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	福島大学うつくしまふくしま未来支援センター・准教授	高木 亨	

(変更の時期:平成 29 年 4 月 1 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
福島大学うつくしまふくしま未来支援センター・	熊本学園大学 社会福祉学部・准教授	高木 亨	水俣病発生地域に関する地理的検討

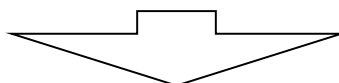
法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

准教授			
-----	--	--	--

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	(一社)和歌山人権研究所・主任研究員	矢野治世美	

(変更の時期:平成 29 年 5 月 1 日)



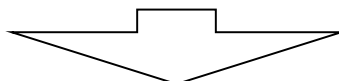
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
(一社)和歌山人権研究所・主任研究員	熊本学園大学 社会福祉学部・准教授	矢野治世美	文献・資料データベース構築

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
臨床をふまえた新たな水俣病概念の呈示	社会福祉学部・教授	下地明友	水俣病の臨床医学と病の人類学

(変更の時期:平成 30 年 4 月 1 日)



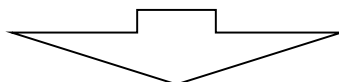
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
社会福祉学部・教授	客員研究員 水俣学研究センター 一顧問	下地明友	水俣病の臨床医学と病の人類学

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
収集資料の解析	熊本日日新聞社・論説顧問	高峰 武	ジャーナリズムと水俣病の連携

(変更の時期:令和 1 年 7 月 1 日)



新

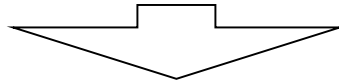
変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
熊本日日新聞社・論説顧問	熊本日日新聞社・論説顧問、水俣学研究センター客員研究員、熊本学園大学特命教授	高峰 武	ジャーナリズムと水俣病の連携

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
国際的研究をふまえた水俣病像の解明	岡山大学大学院・環境生命科学研究科・准教授	頼藤貴志	水俣病の疫学的検討

(変更の時期:令和1年8月1日)



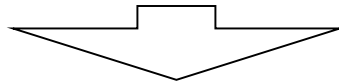
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
岡山大学大学院・環境生命科学研究科・准教授	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科疫学・衛生学分野・教授	頼藤貴志	水俣病の疫学的検討

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
地域活性化につながる地域情報資源の活用	熊本学園大学・社会福祉学部・教授	守弘仁志	地域活性化の検討

(変更の時期:令和1年9月18日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	死去のためプロジェクト参加研究者数減		

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

11 研究の概要(※ 項目全体を10枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

1956年の水俣病の発生確認から半世紀以上が経過し、水俣病事件は社会的には終息しつつあるとみなされている。しかし、学術的・政策的にも被害者の補償と救済の面において未解明な点も多く、抜本的解決策も呈示されていない。そうした中で、被害の多様性研究、地域再構築調査、アーカイブ構築の基盤となる研究拠点の構築発展を企図して本プロジェクトを展開する。原田正純氏が提唱した水俣学の理念と方法を発展させ、水俣病被害の実態、発生機序さらに被害民にとっての課題を明らかにし、その基礎の上に水俣病によって脆弱化した地域社会や大量の水銀が眠る水俣湾埋立地など環境の課題をふまえた地域再構築戦略を、社会と環境の総合的な課題と住民参加と地域の民主主義の形成に基づいて再検証することにより構想する。この研究の過程で水俣病文献収集とアーカイブ構築を進め、それが人材育成の場となり、さらに国内外における研究拠点としての役割を果たす。

第1班の水俣病被害の多面性に着目した問題解決のための包括的研究、第2班の環境負債を克服し地域再構築にむけた評価および民主主義的合意形成をめざす社会的実証研究、第3班の水俣学アーカイブスを通じた知の集積と国際的情報発信拠点の形成の成果を総合することにより、不知火海沿岸の環境負債を活かした住民による地域再構想を提起すること、ならびに多世代にわたる水俣病被害者の復権と幸福な生を実現する健康な社会環境を明示する。

(2) 研究組織

(1) 本研究プロジェクトは「水俣学研究センター」を母体とし、そのもとで組織し、研究代表者は各班の統括、プロジェクトの進捗管理など研究マネジメントに責任を負う。

本研究プロジェクトでは、以下の3つの研究班を組織するが、これらは入れ子状に密接に協働しながら研究を進める。第1班(責任者:花田昌宣、学内研究員4名、学外研究員7名)は、「水俣病被害の多面性に着目した問題解決のための包括的研究」として、水俣病被害とは何かの問い直しが行われ、その研究調査プロセスは第2班(責任者:宮北隆志、学内研究員4名、学外研究員2名)「環境負債を克服し地域再構築にむけた評価および民主主義的合意形成をめざす社会的実証研究」へと反映されるとともに、第2班の成果は、第1班の水俣病問題の解決への指針を提供する。第3班(責任者:井上ゆかり、学内研究員3名、学外研究員3名)「水俣学アーカイブスを通じた知の集積と国際的情報発信拠点の形成」は、水俣学研究の資料的基盤を形成し、第1、第2班のベースを提供すると同時に、この2つの班の地域密着型研究調査過程で収集される資料を加増することで充実が図られる。

(2) 大学院生・PD及びRAの人数・活用状況

大学院では、水俣学フィールドワークを正規科目として実施しており、本研究プロジェクトと連携した教育を実施している。RA等に関しては、2015年度から2019年度まで各年度1名を採用した。

(3) 研究チーム間の連携状況

各班の研究責任者を中心として毎週1回月曜日に運営委員会を持ち研究の進捗状況や問題点を把握し、効果的な運営と緊密な連携をはかっている。プロジェクトの構成員は、研究会などで恒常的に連携するだけでなく遠隔地の研究者も含め、ITツールを用いて絶えず情報交換を行っている。

(4) 研究支援体制

水俣学研究センターに2015、2016年度は研究助手2名、2017年度からは研究員2名を配置するとともに、事務職員3名(本学2名、現地研究センター1名)が配置されている。本学学術文化課が担当事務部局として、財政・経理・施設整備・研究評価、学内諸部局組織との連携を図り支援している。

(5) 学外研究機関などとの連携状況

本研究プロジェクトはオリジナルな方法と課題を有しているため、固定的な共同研究機関を置いていないが、日本環境会議、国立水俣病総合研究センター、NPO法人環境ネットワークくまもと、水俣ほたるの家、水俣病センター相思社、水俣病互助会、水俣病不知火患者会、水俣市や天草市御所浦支所とは、日常的な協力関係を構築している。海外との学術研究交流は、国立成功大学社会科学院(台湾)、EARTH(タイ)、中国清華大学、NGO環境運動連合(韓国)などと交流協定を締結し連携している。

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

(3) 研究施設・設備等

本学の「水俣学研究センター」、並びに水俣市に開設した「水俣学現地研究センター」を本プロジェクト推進のために活用している。2017年1月、これまで借用利用していた本学14号館3階日本・中国金融研究プロジェクト室及び第三会議室を研究スペースとして、また2020年2月には14号館2階のビデオ学習室の利用が認められ、書庫として配置し、資料の受け入れ、データベース化などの研究活動の充実が図れるようになった。

水俣学研究センター		面積(m ²)	用途	水俣学現地研究センター		310.51m ²	
14号館 3階	事務室	33.2	事務作業など	1階	事務スペース	2階	会議室
	文献資料室	33.2	関係図書や資料を配架及び閲覧		研究打合せスペース		研究室
	データベース室	33.2	資料整理・データベース化		休養室		貴重書庫
2階	書庫	33.2	関係図書や資料を配架及び閲覧		資料閲覧スペース		相談室
	書庫	40.0	資料所蔵		資料作業スペース		待合スペース
7号館 3階	書庫	40.0	資料所蔵	談話コーナー	ホール		
	書庫	40.0	資料所蔵	書庫			

研究員1名、事務職員2名、RA1名、アルバイト10名を配置。7・14号館に資料整理作業室ならびに書庫を設置し、水俣学関連書籍、研究資料、DVD等は、研究員、客員研究員や大学院生、調査に訪れる研究者らが活用している。

平成17年8月に水俣市に開設。現地における調査・研究活動の拠点として、研究員1名、事務職員1名、アルバイト5名を配置。健康・医療・福祉相談、研究会などは2階に設置された相談室・会議室で行う。

(4) 研究成果の概要 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

各研究班における研究成果の概要、共通した研究成果に分けて以下示す。

【1班 水俣病被害の多面性に着目した問題解決のための包括的研究】

(1) 継続した健康・医療・福祉相談：2015-2019年

現地における調査・研究活動の拠点として、2005(平成17)年8月に水俣市浜町2丁目に開設した水俣学現地研究センターにて、健康・医療・福祉相談を行っている。これは、地元貢献の意味を持ち、住民のニーズに応えるよう努力している。毎月2回実施しており、本事業実施中、180件数の相談があった(153)。

水俣病の被害は、補償救済制度についての知識が得られておらず、理解していないため認定申請が遅れたケース、近隣からの差別を恐れて本人が公健法の認定申請や水俣病特措法の救済策への手続きといった水俣病救済システムを拒絶していたケース、自身の水俣病の症状に気づいていなかったケースなど種々の理由から補償救済対象となっていないケースなどに類型化されることを解明した(25.98.104.105.107.138)。

水俣病の健康被害の多様性の研究として若い世代の水俣病被害者(胎児性水俣病と同世代)の被害実態に着目した。とくに、高次脳機能障害を把握するべく臨床心理テストと医学的臨床検査を組み合わせた手法を開発して、調査を行い成果の一部を発表できた。全身病としての水俣病が人格に与える影響を考察した(34.37.38.39.40.41.42.43.44.45.46.157.162.163)。これらの成果は、タイ王国チュラロンコン大学からの招聘による水俣病公式確認60年国際シンポ、総合地球環境学研究所から招へいを受け、インドネシア・ハサヌディン大学とゴロンタロ州立大学で開催された国際シンポジウム、水俣学研究センター第3回国際フォーラム、水俣学研究センター私立大学戦略的研究基盤形成支援事業成果報告シンポジウムで報告した(135.140.144.146.151.152.153.157)。

2017年1月18日、2019年1月13日に開催した水俣病臨床研究会では、水俣病医学研究に携わる医師らを中心に、新潟、東京、大阪、岡山、熊本の医師および弁護士など26人、水俣学研究センターの研究員が参加し、水俣病に積極的にかかわる専門家が中心となって、日本神経学会による水俣病に関する見解をめぐって情報共有とディスカッションを行った。

(2) 朝日新聞社と共同で水俣病公式確認60年アンケート調査を実施：2016年

2016年2月から3月にかけて、熊本学園大学水俣学研究センターは朝日新聞社と協力して、水俣

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

病公式確認 60 年アンケート調査を 8000 人を超える水俣病被害者に対して水俣病被害者団体の協力を得ておこなった。目的は、水俣病の被害を受けた人々の、被害経験及びその認識を把握し、水俣病に係る現在の課題および将来に求められているものを把握することを通して、今日の現状と課題を明確にしようというものであった。

この調査には被害者団体、14 団体に協力を依頼し、うち 8 団体が協力、団体として機能しておらず会長が個人的に協力していただいた団体もある。調査はアンケート用紙による自記式調査であった。調査票の配布及び回収は郵便でおこない、一部手渡しもあるがそれはごく少ない。アンケート配布総数は 8936 通、回収数は 2619 通で回収率 29.3%であった。

アンケート実施後、単純入力作業がほぼ終わり、データ入力の校正や集計作業に入ったばかりの 2016 年 4 月に熊本地震に見舞われ、水俣学研究センターも含め熊本学園大学全体も被災したため、集計・分析作業は予定より遅れることを余儀なくされた。中間報告は守弘が第 13 回水俣病事件研究交流集会において発表した (194.3)。クロス集計や統計処理を中心とした分析作業を終え 2019 年 2 月には最終報告書を刊行した (92)。被害者を対象とした調査は本調査が初めてであり、不知火海沿岸被害者が水俣病事件史 60 年のとき何を求めているのかを知り得た意義は大きかった。

(3) 2014 年に実施したカナダ調査結果を先住民族の 2 つの居留地で報告：2016 年

カナダ先住民の居留地のうちメチル水銀汚染の被害を受けているイングリッシュ・ワビグーンリバー流域のヴァバシムーン、グラッシーナロウズの住民に対し、2004 年以来継続的に実施している調査結果を踏まえて 2014 年に実施した医学的調査および魚類の総水銀調査結果の報告を行い、意見交換を行った。また、トロントで MDB (水銀障害委員会) 検討会に要請があり参加。トロント大学では学生や市民など対象に講演を行った。1974 年から原田がカナダ水俣病の医学的調査を行っており、当センター設立当初から医師団や社会的調査班を編成し 2 つの居留地で調査を進めてきた。こうした継続的な関わりが水俣と世界を結びつけ、水銀条約にむけた課題整理につなげることができるといえる (13.119.199.200.202)。

(4) カナダ水俣病と熊本水俣病シンポジウムの開催：2017 年

カナダ水俣病の被害者を招聘し、熊本市と水俣市、東京都でシンポジウムを 2017 年に開催した。このシンポジウムは、第 1 班の水俣病を社会的なものとして位置づけ医学的な学問から解放し、社会環境のなかに再定置し、あらためて終わることのできないカナダと熊本水俣病の被害実態を明らかにすることを目的として開催した。この取り組みにより、海外とのネットワーク形成のみならず公害発生地域への貢献がより深まった (144.201)。

(5) 資料叢書の刊行：2016 年

熊本県芦北町の漁師が書き残した日記などを同地域の漁民に聞き取りを行い編者が必要最小限の脚注をつけ資料叢書 V として刊行した (126)。

(6) ブックレットの刊行：2015-2020 年 3 月

不知火海沿岸には長崎や広島のように歴史を刻んだ案内看板が百間排水口と親水護岸にしかない。そのため水俣病を学ぶためのガイドブックを刊行し 13 年が経過した年に新版を刊行した (91)。さらに同書の英語版も刊行した (88)。水俣病公式確認から 60 年を迎えた年に歴史の証言と今日的課題を示すことが求められておりブックレットとして刊行した (98)。

(7) 書籍の刊行：2020 年 3 月

1 班の取り組みとして 2011-2012 年に原田らと行った熊本県芦北町の水俣病多発漁村の医学的全戸調査と社会的調査の成果を書籍として刊行した (123)。

【2 班 環境負債を克服し地域再構築にむけた評価と民主主義的合意形成をめざす社会的実証研究】

(1) 社会的困難を抱える地域における合意形成と自立的発展に必要な視点の提示：2015 年-2019 年

東部タイ・マプタプット、東北タイ・ルーイ県、ミャンマー・ティラワ SEZ、並びに、国内では水俣、並びに、福島におけるフィールド調査、課題検討会、ワークショップ、国際シンポジウムの開催を通じて得られた「地域の自立的/内発的発展に必要な視点」は、下記の 4 点に整理された。①「予防原則」に基づいた初期対応の重要性を再確認すること。②「国」と「地方」、或いは、「中央」と「周縁部」という構造の存在を明確化すること。③新たな「社会的合意」形成の仕組み（民主主義）の確立を模索すること。④地域固有の資源を地域のために活用するための仕組みや制度を確立する。これらは、地域の資源を活用して、自然に寄り添うようにして生きてきた人々が、最初に、しかも、最も深刻な犠牲を引き受け生活しているという現実から見えてくる視点であり、地域の資

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

源としての太陽光、水、風、土、鉱物、森林、川や海などの「自然資本」の活用を、地域住民の手で行うことによって、地域の持続可能性を、「環境」「地域経済」「社会的公正」の3つの側面から高めていくことが求められていると考える。持続可能な地域社会を住民主体でつくりあげてくために、今、それぞれの地域に求められているのは、「地域の風土・歴史・文化」に根ざした地域固有の解決策（地域のあり方）を見出し、それを外に開き、グローバルに共有する中で、一つひとつの、ひとり一人の命の尊厳が保たれる社会の実現に粘り強く取り組んでいくことである（93）。

(2) 「水俣市ゼロ・ウェイスト円卓会議」と「ゼロ・ウェイストのまちづくり推進会議」におけるアクションリサーチ：2015-2020年

水俣市における市民-行政協働のシステムである「水俣市ゼロ・ウェイスト円卓会議」への参与観察、あわせて全国のゼロ・ウェイスト宣言都市（徳島県上勝町・福岡県大木町・奈良県斑鳩町・福岡県みやま市、および水俣市）を連携する「ゼロ・ウェイストのまちづくり推進会議」における事務局機能を担うことを通して、水俣市における地域再構築・合意形成をはかる基盤を構築することができた（195）。

(3) 課題検討会の開催：2015年

「環境首都水俣創造事業」とそれに至る経緯を中心的な議論対象としながら、水俣市の「協働」「市民参加・参画」について市民らと情報共有と意見交換を行った。

(4) 資料叢書の刊行：2017年

市民研究グループみなまた地域研究会と共同で沿岸漁民の生活史を明らかにし漁業と暮らしの歴史と現在を明らかにする目的で聞き取りを行い、その記録を資料叢書IVとして刊行した（97）。

(5) ミャンマー金鉱山調査：2019年

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科の協力を得て、ミャンマー政府天然資源省環境保護局の案内で、ミャンマー北部シングー周辺の小規模金採掘鉱山の操業実態を調査した。ミャンマーにおける水銀使用の現状を把握することができた。水銀に関する水俣条約の発効に伴い、世界的に水銀規制が厳しくなる中で、水俣病の教訓を国際的にどう伝えていくのか、今後の学術交流や調査の基礎が構築できた。

(6) 地域研究会の成果：2015-2019年

水俣市民や水俣病被害者を主体として、当センターと共同で水俣病の負の遺産を生かした地域づくりの将来構想を自らの手によって示すことを目的に「みなまた地域研究会」を結成し、調査活動を行った。水俣湾及び水俣市内に残る水銀による環境汚染を調査し、対策の必要性を指摘した。一方、鹿児島大学の協力のもと、海辺の生き物観察を行い、生態系の回復を確認した。また、**現在の水俣市民の魚食の程度や水銀摂取量を把握するため、陰膳調査や献立調査などを実施**、現状把握を行い、水銀摂取量の多い者がいることを見出した。水俣条約の汚染サイトとして、水俣湾埋立地や旧八幡プールリスク管理を行う必要があることを提起した。水俣市民が、水俣川河口部振興構想の是非を検討するための資料として活用されている（68.118.181.190.191.192.193）。

(7) 中国と水俣の環境問題シンポジウムの開催：2019年

「中国の環境問題の現在—重金属と健康への影響」と題する、本学の特別セミナーにおいて、中地が「水俣湾に埋め立てられた水銀と水俣条約の課題」というテーマで報告した（183）。なお、2020年3月に貴州省及び湖南省での調査を中国科学院環境地質化学国家重点研究所郑宝山教授チームと実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で延期された。

(8) 韓国加湿器殺菌剤被害ワークショップの開催：2019年

韓国の加湿器殺菌剤問題に取り組む研究者、韓国政府機関担当者や水俣病補償救済制度等を比較検討し、加湿器殺菌剤問題解決を展望する意見交換のためのワークショップを開催した（138）。また、10月には国立ソウル大学公衆衛生学教室並びにアジア公衆衛生学会の招聘を受けて研究発表をした（136）。

(9) ブックレットの刊行：2015、2016年

『いのちをつなぐ～水俣、福島、東北～』は、2011年3.11東日本大震災からどのように復興していくのか、特に放射能汚染からの復興を考えるために、風評被害や差別事件などを解決していくために、水俣病の経験と対比し、課題を整理、解決策を見出すための一助としてブックレットを刊行した。また、『九州・熊本の産業遺産と水俣』は、世界産業遺産として九州各地の産業遺産が登録されるに際し、水俣市内のチッソの旧工場や熊本市内にも同等の価値がある産業遺産があることを紹介するために刊行した（100）。

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

【3班 水俣学アーカイブスを通じた知の集積と国際的情報発信拠点の形成】

(1) 寄贈資料を水俣学データベースで順次公開：2015-2019年

本研究期間中、添付資料表 1 の資料群の寄贈を受け、それらの文献目録化を終え、逐次水俣学研究センターのホームページ上で「水俣学研究センター所蔵資料データベース」として公開した。研究期間中、公開した資料群は添付資料表 2 の通りであった。

目録には、一部資料画像のマスキングを行い（マスキング基準有）公開している。さらにカセットテープなどの音源資料は、デジタル音源に変換し、目録上で視聴できるよう工夫を加えた。写真資料は、水俣病事件のただなかを生きてきた元新日本窒素労働組合員の協力を仰ぎ、写真 1 枚に①フィルム番号②コマ番号③現像日④タイトル⑤撮影地⑥人物⑦主題別索引⑧備考を記載する「写真資料カード」を作成し、写真 1 枚が水俣病事件を知らない若い世代にまで語り続けていける情報を盛り込んだ。こうした地域の人材とモノをマッチングし後世に資料を受け継ぐことこそが研究基盤を構築するのみならず水俣病事件を中心とした教訓の発信につながるといえよう。なお、写真画像は目録上に順次公開している。

HP 上のデータベースページ閲覧件数は、129754 件であった。研究期間中、来館し資料閲覧された件数は添付資料表 3 のとおりであった。水俣学研究センターHP 上のページ別閲覧件数では、「データベース」は 2016 年 6 位だったものが 2019 年 12 月には 3 位になるなど、資料群の公開数が増えるに従って閲覧が増えていることがうかがえる（2019 年 12 月グーグルアナリティクスによる、以下同様出典）。この成果により、国内外に散在する資料を集約し、水俣学研究の情報基盤形成という目標を達成できた。この成果は学会などで報告した（205.208.210.211.212.213.）。

(2) 水俣学アーカイブの拡充と英語版の公開

水俣学アーカイブスは、資料と映像をリンクしたアーカイブで、水俣学研究・資料文献データベースおよび映像資料を通して、水俣学の取り組みの一端が研究者以外へも理解が容易になるよう、閲覧システムを HP 上に構築し 2014 年に公開したものである。コンテンツは、証言（「患者証言」を動画で配信）・歴史（「水俣今昔」として水俣市街写真の昔と今を地図上にマッピングしキャプションとともに公開、「時空でたどる新日窒労組」は安定賃金闘争時代の 10 拠点で組合がどのような闘いを行ったかを写真で迎えることができるものを公開）・自然（「海辺の物語」として地域研究会の生物写真を地図上に配置し公開）・教育・記録・未来で構成している。

研究期間中、これらコンテンツの充実を図るとともに、2016 年 4 月にはアーカイブの英語版を作成し公開した。さらに 2017 年 3 月には「時空でたどる新日窒労組」の英語版を公開した。英語版の充実を図ることで、アメリカ 1.22%、カナダ 1.15%、韓国 0.38%、台湾 0.22%、タイ 0.18%、マレーシア 0.12%、ブラジル 0.1%、不明 0.22%と海外からの閲覧も増えている。

水俣学研究センターHP のページ別閲覧状況は、トップページ 15.83%、水俣学アーカイブの「水俣今昔」 5.91%であり、電話での問い合わせも多くなっている。さらに、国内の閲覧場所は、熊本市 16%、大阪市 10.84%、東京都新宿区 5.17%、神奈川県横浜市 4.89%、福岡市 4.54%、東京都港区 4.3%、愛知県名古屋市 2.41%、京都市 2.35%、東京都千代田区 2.26%、その他 1.89%で首都圏での閲覧件数が伸びている。本研究期間中にデータベース、アーカイブを充実させ、さらに海外にも情報発信したことから、第 3 班の到達目標である「将来にわたる水俣学研究の情報基盤の構築と共有、成果の国内外への発信」は達成できたと考える。

(3) 水俣病事件資料集続編刊行にむけた資料収集と整理

水俣病研究会が 1926 年から 1968 年までの資料『水俣病事件資料集』を刊行したのは 1996 年であった。未だ終わることのできない水俣病事件において 1968 年以降の資料を若手研究者が入手することは困難な状況となっている。そのため続編の刊行が待たれており、かつ水俣病事件を初期から経験している患者や支援者、研究者らが亡くなっていく状況のなか喫緊の課題として資料集の続編を刊行するために、水俣病資料集編纂委員会を 2015 年にたちあげ編集作業に着手した。続編に編纂する資料群は当センターが公開してきた資料を中心とした。2016 年に熊本地震により資料破損などを経験したことで、熊本大学と本学に保存されている水俣病研究会蒐集資料を複写するプロジェクトも開始した。研究期間中に熊本大学に保存されている水俣病研究会蒐集資料の複写ならびに仮目録作成を終え、今後本学に保存されている 1968 年以降の水俣病研究会蒐集資料目録とあわせ編纂を行う予定である。計画では研究期間中に刊行の予定であったが、熊本地震の影響で基礎資料の整理、選定にとどまった。しかし、この作業に RA1 名を配置し若手研究者の人材育成に努めたこ

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

とで第3班の到達目標である「人材育成」は実を結びつつあるといえる。

(4) 段階的資料保存プロジェクトの開始

2016年熊本地震を契機として、劣化の激しい資料を対象として簡易補修処理ならびに脱酸性化作業を行う段階的な保存プロジェクトを開始した。本プロジェクトは、研究基盤形成の要となる100年後の世代に資料を受け継ぐ取り組みとして位置付けられており、第3班の到達目標である「将来にわたる水俣学研究の情報基盤」を形成した。

(5) 横断検索機能の追加

2019年3月には、これまで公開してきた膨大な資料群を横断的に検索することのできる「横断検索機能」をHPのデータベースに搭載するシステムを構築した。このことが資料検索を容易にし、利用促進につながると考えている。しかし、横断検索機能公開間際になりグーグルなどが突如として音声や動画の無料配信サービスを中止したことを受け、これまで公開してきた音声や動画配信を当センターのシステムに構築しなければならなくなり、横断検索機能の公開が遅れ2020年5月となったが、本研究がもたらした成果は大きい。

(6) 教育コンテンツ機能の検討

上記水俣学の資料群を環境教育に活かす研究に発展させるため、第3班の責任者が2020年度科学研究費助成事業（基盤B）に応募し採択された。こうした研究ができることとなったのは、第1期（2005-2009年度）、第2期（2010-2014年度）、第3期（2015-2019年度）と継続して研究基盤形成を整える支援をしていただいたおかげであるといえる。

【第1.2.3班の共通した研究成果】

(1) 水俣学講義による人材育成：2015-2019年

水俣学講義は2002年に熊本学園大学社会福祉学部（3年次以上対象、福祉環境学科は必修、ライフウェルネス学科・子ども家庭福祉学科・社会福祉学科は選択科目）に開講され18年が経過した。この講義は、当センターの運営委員が担当教員として授業計画をたて、患者・研究者・弁護士・記者・支援者など水俣病事件に関わってきた方々を外務講師として招き講義していただいている。

毎年200名を超える学部学生が履修し、そこから水俣病事件研究を志す院生もでている。また一般市民も聴講し、授業は当センターHPでライブ中継しているため海外からも閲覧することができるシステムを構築している。この講義は水俣病の知識を教えるものでなく、社会に出て最も大切な「いのちへの向き合い方」を自らと重ね考えることに重きをおく若手人材育成として位置付けている。当センターの研究を発展させた教育であり、単に研究者を養成するだけでなく地域に根ざした人材を育成する教育プログラムといえる。

(2) 水俣学若手研究セミナーの開催：2015、2017、2019年

全国の大学関係者、大学院生およびPD、指導教員の推薦のある学部生、在野の研究者を対象に、希望者に略歴書・研究テーマを提出してもらい受講者の決定を行い、座学とフィールドワーク、そして討論を行う現地セミナーを2011年から開催している。このセミナーには、本研究センターの主な研究者のみならず客員研究員などが座学やフィールドワーク準備を行い、各研究班の成果を情報共有する場ともなっている。本研究期間中は3回実施し、参加者は、全国の大学の法学部・医学部・文学部・社会学部の大学院生のみならず、研究者や写真家、水俣の住民など多様な顔ぶれとなった。なお、このセミナーは本学大学院社会福祉学研究科福祉環境学専攻のフィールドワークIに位置づけられ、本学大学院生も参加した。様々な立場から水俣病事件を見つめなおすオープンな教育の場を提供できている。しかし、国際的教育・研究センターを目指すならば、海外からの参加を呼びかける英語版のチラシなど作成する必要があったと反省している。

(3) 水俣病を「伝える」セミナーの開催：2016年

水俣病事件史において第一次訴訟など初期から道を切り開いてきた人の語りから水俣病を学び自らの教育現場でどのように次世代に伝えていくかを再検証することを目的に、水俣芦北公害研究サークルと共同で2010年からセミナーを開催してきた。水俣病公式確認60年を迎えた年に、水俣・芦北・津奈木の教職員を対象として、患者から学び伝える必要性と子ども達にどのように伝えていくのか課題整理と意見交換を行った。この取り組みが、第1班の研究成果である「水俣病被害と補償救済に関する実情」を提供する場となり、さらには地域の教育人材を育成するのみならず、地域のコンフリクトのなかで教育に携わる教員たちの現状と課題共有の場となり、第2班の「地域戦略への提言」につながる取り組みとなった。

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

(4) 定例研究会の開催：2015、2016、2017、2019 年

定例研究会は当センターの研究員・客員研究員・特別研究員による研究報告と議論することを目的に開催している。2016年2月に「水俣学プロジェクトの今後の進め方について」として各研究班の進捗状況報告と課題を確認した。同年11月には熊本地震後の水俣湾埋立地や八幡残渣プールなどの水銀の安全性について中地が報告し、地域再生のための地域戦略の提言を行った(191)。2017年9月には京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究科の藤倉達郎氏を招聘し「地域研究の可能性と水俣学」として開催した。また同年10月に京都・たかぎクリニック精神科医の高木俊介氏に「オープンダイアログと水俣学」と題し話題提供いただいた。これら2つの研究会は、中間報告前の水俣学の研究基盤形成に向けた各班の研究課題整理の場となった。さらに同年9月には、熊本大学政策創造研究教育センター上野眞也教授から「不知火海の漁業・流通のメチル水銀暴露リスク」と題した報告を受け、水銀暴露と健康被害について討議する機会を設け、新たな研究課題への契機を得た。

(5) Schoo との教育連携：2015 年

熊本学園大学では、インターネット生放送を活用したコミュニケーション型動画学習サービス「schoo(スクー)WEB-campus」を運営する株式会社スクーと連携し、2015年7月から『現代に生きる水俣学』をオンライン上で開講した。九州では本学が初めての開講であり、いつでもどこからでも学びの場を提供できる試みであった。現在、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言後、全国の大学でも遠隔授業が採用されているが、水俣学としては容易に対応が可能であった。

(6) 国際フォーラムの開催：2019 年

熊本市および水俣市で開催した「第3回環境被害に関する国際フォーラム」は、研究者だけでなく、国内外の公害被害発生地域の被害住民、研究者、NGO/NPO 支援者らによって構成し、被害者の視点にたち、公平と正義に基づく実践的な議論の場となることを目的に開催した。参加国と地域は、カナダ・韓国・中国・新潟・水俣であり、参加者は延べ200名であった。この国際フォーラムは、海外とのネットワーク形成を強化するとともに、学際的でオープンな情報共有の場、さらには継続的な公害による環境破壊や健康被害のない社会づくりに役立つ提言の場となったことから各班の目標は達成された。またこの成果は『水俣学研究』に投稿し掲載が決定した(印刷中:1)。なお当初計画していたように本フォーラム中、国内外の被害者の映像記録を撮影し、アーカイブに搭載するための編集を終え、近日公開予定である。

(7) 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業成果報告シンポジウムの開催：2019 年 12 月

本研究期間中、中間報告を2018年1月の第13回水俣病事件研究交流集会において行い課題整理と研究計画の修正を行い取り組んだ。その成果報告シンポジウムを2019年12月に行った。報告は第1、第2、第3班からそれぞれ行った(135.153.182.205)。この報告を受け、市民や客員研究員などとともに「水俣学」を今後どのように発展させていくかを公開で議論した。

以上のように、当初計画どおりの成果が得られた。また、成果の一部は、学術誌や新聞報道で取り上げられ、今後の展開が期待されている。

<優れた成果が上がった点>

これまでの研究成果のなかで特に優れた成果を各班で示す。

【1班 水俣病被害の多面性に着目した問題解決のための包括的研究】

(1) 健康・医療・福祉相談事業を通じた調査の遂行および胎児性水俣病に関する臨床的調査及び文献資料等の調査研究の成果をタイ王国チュラロンコン大学で開催した国際シンポジウム Minamata@60: Learning from Industrial Disaster towards Sustainable Society and Environment において発表した(146.157)。とくに戦略的研究基盤形成支援事業成果報告シンポジウムでは、健康・医療・福祉相談事業を通じた調査結果を水俣学研究センター設立15年目の成果として報告したことは、テレビ局から特集番組がつくられるなど社会的反響が大きかった(153)。

(2) また、朝日新聞社と共同で実施した水俣病被害者を対象とした意識調査では調査対象者8000人で回収率は30%を超え、水俣病研究史上初めての大規模調査となった。集計結果は2018年1月に中間報告として公表し、2019年2月には最終報告書(3)を刊行することができたが、先行調査の分析も踏まえた統計的分析ならびに自由回答欄の質的分析を進めており、水俣病被害の社会的側面を質的にも明らかにできるものである。

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

【2班 環境負債を克服し地域再構築にむけた評価と民主主義的合意形成をめざす社会的実証研究】

(1) 地元市民グループと共同で不知火海の底質・魚介類中の水銀調査、陰膳調査を行った。本調査で、水銀による高濃度の土壌汚染が明らかになり追加調査を実施し、地元での公開の研究会で警告を発するとともに熊本県へ調査の必要性を提言した。陰膳調査では、週間耐容摂取量と同程度の水銀を摂取している市民がいることを明らかにしたが、サンプル数が限られているため対象者を増やすとともに継続したモニタリングを行っている (68.190.193)。

(2) 水銀に関する水俣条約の発効に伴い、水俣湾埋立地(エコパーク)及び旧八幡プール(チッソの産業廃棄物最終処分場)を汚染サイトとして管理する必要性を問題提起した。水俣川河口部振興構想による公有水面埋立の是非を検討する際に参考にされている。

(3) 東北タイ・ルーイ地区、ミャンマー・マンダレー管区、インドネシア・ゴロンタロなどの環境汚染発生現地調査を地元研究者らの協力により実施、地域に根ざした水俣病の教訓の国際発信と協働の取り組みを始めることができた。

【3班 水俣学アーカイブスを通じた知の集積と国際的情報発信拠点の形成】

(1) データベースで公開した文献目録には、倫理上の配慮をしながら積極的に資料画像を公開するとともに目録上で音声データが視聴できるシステムを構築し、歴史的な音声記録を公開している。また、アーカイブ構築を進めて、写真のみならず動画映像も公開し、研究成果公開による社会への貢献を果たすことができた。この成果により、国内外に散在する資料を集約し、水俣学研究の情報基盤形成という目標を達成し、さらに英語版を作成したこと、成果を国内外へ発信する目標も達成することができた。

(2) 地域の人材と資料をマッチングさせることで資料の価値を高め、資料整理にRAなどの若手研究者をあたらせることで人材育成を図り、研究基盤を構築してきた意義は大きいといえる。

(3) 2020年3月には、すべての資料群を横断し検索できる機能を搭載した。Googleが動画や音声配信サービスを突然終了したことを受けて、サーバー上のシステム構築を余儀なくされたが、期限内に横断検索機能を公開することで当初の計画していた資料利活用の促進につながった。

＜課題となった点＞

本研究プロジェクトは、当初の計画通り、またはそれ以上の成果を達成することができた。そのため研究期間終了時における大きな問題点はないが、以下の課題を構成メンバーで共有し、水俣病の経験を将来に活かした地域構想を実現させ社会に還元していく。

(1) 若手研究セミナーなど若手人材育成の場で、国際的教育・研究センターを目指すために、海外からの参加を呼びかける英語版のチラシなど今後作成する。

(2) データベースの導入部分は英語版を作成したもの、目録上は日本語のままであるため、今後は目録上の英語版を作成する必要がある。しかしながら、写真画像や資料画像、さらにはアーカイブで動画配信し英語字幕をつけていることから、資料閲覧来館者のなかにはドイツなど海外から写真や映像資料の閲覧もできており、当初の研究計画以上の成果は達成できた。

＜自己評価の実施結果と対応状況＞

当センターホームページ上で研究成果は順次公開し、定例研究会などで各班の情報・意見交換を活発に行い、メンバー間の研究促進および連携強化に努めた。さらに各班の研究成果は年度ごとに学会などで報告し課題整理、計画の修正を行い研究促進に努めた。結果として当初の計画通りの成果をあげることができた。研究者の定年退職があったものの当センターの客員研究員として共同研究を進めた。また、研究者の突然の死に見舞われたものの、研究終了間際であり、それまでに成果を残し若手研究者に引き継いでいたため問題は生じなかった。

＜外部(第三者)評価の実施結果と対応状況＞

下記3名の外部評価委員から外部審査を受審した。評価の抜粋を以下に示す。

【外部評価委員】

1. 長谷川公一委員 (東北大学大学院文学研究科教授、2020年より尚絅学院大学大学院特任教授)
2. 赤木洋勝委員 (国際水銀ラボ取締役所長)
3. 嘉田由紀子委員 (前びわこ成蹊スポーツ大学学長、2019年より参議院議員)

【外部評価】

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

(1) 研究組織について

3つの研究班が入れ子状に協働している点は評価できる。大学院生・PDの数は不明である。後述のように2016年に実施した患者・被害者アンケート調査結果の分析・発表があまり進んでいないのは、分析しうるスタッフの不足等によるものではないかとの印象を持つ。高度な統計処理能力が求められているわけではないので、学外の若手研究者との適切な協働などによって、早期に対応することが求められる。幾つかの学外研究機関と連携しているが、研究組織にも海外の研究者の参加が望ましい。「将来に活かした地域構想」に関連して、水俣の地域再生という課題を水俣学の中にどのように位置づけるのかは、重要な論点であり、この課題を3つの研究班のうち、どこがどのように担うのかという点を、今後明確にしてほしい。(長谷川)

熊本学園大学を拠点として、水俣学の学際的な研究だけでなく、学生の教育拠点として、複合的な組織役割がうまくまとまっていると思われまます。特に水俣病発見から60年をへて、社会的に風化される恐れがある中で、自然科学と社会科学の研究者だけでなく、患者・被害者や関係者の協働として新たな学際研究を展開している野心的な組織に多いに期待します。現地密着型の研究として、地の利、人の利、組織の利の総合化は見事です。(嘉田)

(2) 研究施設・設備について

水俣学アーカイブが日英語版で公開されはじめた点は評価できる。「国際的情報発信」は難題だが、水俣学こそ、国際的に情報発信していくべき貴重なコンテンツである。国際的情報発信の内実化にさらに本格的に取り組んでほしい。(長谷川)

水俣地元での、各種の資料、特に文書や写真などは後からみると一層資料的価値が高まるものです。デジタル化の技術が進む中で、写真資料などのデータベースをすすめ、それがオンラインで、外部からも検索や活用できるようになっているところは素晴らしいです。今後、これらの内容を展示できるような施設展開は可能でしょうか。(嘉田)

(3) 研究プロジェクトの進捗状況・研究成果などについて

若手研究者が着実に研究成果を蓄積している点は評価できる。狭い意味でのアカデミックな発表の場だけでなく、運動的なメディアを重視している点、2016年の熊本地震とセンターとの関わりを積極的に発信してきた点も評価できる。ただし全体として査読論文の数、アカデミックな学会での報告数、英語での研究成果の発表が限られている。2016年に朝日新聞社と本センターが共同で実施した患者・被害者アンケート調査は2610人か回答を得て、回答結果の分析が大いに期待されたが、2016年5月1日前後の新聞報道は目立つものの、学術的な報告が質量ともに限られていたのは、きわめて残念である。水俣学研究9号掲載の研究ノートが代表的なものだが、単純集計レベルにとどまっている。(長谷川)

参加者アンケートや、新聞記事をみると、水俣病を風化させない、という必要のの高さがうかがわれます。そのような中で、大学の組織全体を拠点として、原田正純さん達先駆者が目指した、被害者住民当事者もふくめた協働研究がすすめられていること、深く敬意を表します。(嘉田)

(4) 選定時の「留意事項への対応状況」について

特になし(長谷川)

記載なし(嘉田)

(5) 総合所見について

運動的な要素と学術研究的な側面との統合は、魅力的ではあるが、きわめて難しい課題である。患者自身の高齢化、第1世代の研究者から次世代の研究者への世代交代等の諸課題に直面しながら、また熊本地震の被災などがありながらも、本センターが善戦していることは何人も否定できまい。本センターが果たしてきた水俣学の学術的な継承・基本的な課題の掘り起こし・患者との対話などの諸側面は高く評価できる。ただし水俣学の新たな展開・創造的発展という点で、どの程度特筆すべきものを遺せたのか、という点では評価は分かれるのではないかと。引き続き、真摯に努力いただきたい。(長谷川)

直近の裁判結果など、残念な結果でしたが、国会での報告会も開催していただき、政策責任母体である環境省などに働き続けることはますます重要になっています。未だ全域の疫学調査などもなされておりませんが、これこそ行政や政治の仕事です。昨年出版された井上さんの画期的な漁村社会学研究などを基盤として、引き続き社会的発信を続けて下さるよう、ご期待申し上げます。国会

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

議員として、また環境社会学者として応援させていただきます。(嘉田)

<研究期間終了後の展望>

具体的には以下の展望をもって研究を継続・発展させていく。

(1) 学内外からの水俣学の調査・研究及び教育と人材育成については、期待も高く、戦略的研究基盤形成支援事業によって形成された研究拠点は、維持・継続、発展が求められている。私大助成を初め、公的機関による学術研究支援の種々の補助金獲得を得て研究基盤を維持する。

(2) いまだ水俣病をめぐる差別事件があとをたたず、水俣病を中心に据えた地域づくりを模索している熊本県においては、学校や社会における公害教育は必要不可欠である。水俣病公式確認から 63 年が経過し、「公害水俣病」に対して多角的視点から取り組める人材及び活用しうる資料やツールが求められている。そこで、熊本学園大学学生、小中学校教員、市民を対象として、独自に制作した「水俣学データベース、アーカイブ」という集積したデータを活用し公害教育のモデル化を行い、多様な分野の知識や考え方を持ち合わせた人材を育成し、あわせて公害教育のプラットフォームを形成することで、水俣病事件を理論的・実践的に研究する社会基盤を構築していく。」

<研究成果の副次的効果>

水俣学データベースおよびアーカイブを活用した環境教育に寄与するため、実践的なプログラムの構築が待たれている。

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- (1) 水俣学 (2) 水俣病 (3) 公害
 (4) 被害救済 (5) 地域再構築 (6) 健康影響評価
 (7) アーカイブ (8) データベース

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

<雑誌論文>

研究班 1 水俣病被害の多面性に着目した問題解決のための包括的研究						
No.	著者名	論文標題	雑誌名、巻号	ページ	発行年	査読
*1	花田昌宣	第3回環境被害に関する国際フォーラム報告記録	水俣学研究、10	印刷中	2020	
2	花田昌宣	水俣の風景と一人芝居	季刊・水俣支援 東京ニュース、8	4	2019	
*3	守弘仁志、中地重晴、井上ゆかり、花田昌宣、田尻雅美、斎藤靖史、田中久稔、藤本延啓	水俣病公式確認 60 年アンケート調査結果総論	水俣学研究、9	19-38	2019	
4	花田昌宣	水俣病の学術と運動の担い手	日本看護倫理学会誌、11(1)	109-110	2018	
5	花田昌宣	水俣避病院と水俣病:水俣病差別の理解のために	部落解放研究くまもと、76	71-107	2018	
6	花田昌宣	公害被害と社会福祉の課題の方法論序説:水俣病事件の被害の社会的側面に関して	水俣学研究、8	47-60	2018	
7	花田昌宣	研究と実践をつなぐ新たな研究モードの創生:水俣学から熊本地震へ	Social Design Review、9	10-21	2018	

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

8	花田昌宣	インクルーシブな避難所と水俣学の経験－地域に根ざした学と社会運動	現代思想、45(5)	96-104	2017	
9	花田昌宣	水俣病は終わっていない:水俣病公式確認 60 年の現状と将来への課題－熊本震災をふまえて	部落解放、736	15-23	2017	
10	花田昌宣	熊本地震と障害者支援:避難所の経験から	部落解放研究くまもと、72	3-73	2016	
11	花田昌宣	被災者支援と人権保障	ヒューマンライツ、344	2-11	2016	
12	花田昌宣	水俣病 60 年、今残された課題と水俣病研究の教訓	環境と公害、46(2)	40-45	2016	
* 13	Hanada, M., Shimoji, A., Nakachi, S., Tajiri, M., Inoue, Y., Morishita, N., et al	2014 Report on Research Results for Minamata Disease in First Nations Groups in Canada	水俣学研究、7	19-34	2016	
14	花田昌宣	障害者を受け入れたインクルーシブな避難所:熊本学園大学での取り組み	季刊福祉労働、152	125-130	2016	
15	花田昌宣	公害水俣病に対する差別の現在形	ヒューマンライツ、338	2-9	2016	
16	花田昌宣	水俣病の六〇年:公害の経験をどう活かすか	科学的社会主義、216	38-44	2016	
17	花田昌宣	水俣病を人権と差別の課題として	部落解放、724	46-55	2016	
18	花田昌宣	公式確認六〇年:なぜ水俣病が終わらないのか 差別と人権の課題として	部落解放研究くまもと、71	62-77	2016	
19	花田昌宣	水俣病に関する差別の現状と課題:差別事例の調査から見えてくるもの	ヒューマンライツ、333	34-39	2015	
20	花田昌宣	「水俣学」をつくる	歴博、192	11-15	2015	
21	下地明友	不思議の場所、それは多文化間精神医学:臨床の位相は徴候的な場所である(第 24 回多文化間精神医学会 2017 年度受賞講演)	こころと文化、17(1)	67-70	2018	
22	下地明友	不思議の場所、それは多文化間精神医学 - 臨床の位相は徴候的な場所である	こころと文化、17(1)	67-70	2017	
23	下地明友	災害とこころのケア～熊本地震の経験から～	精神衛生、69	1-18	2017	
24	田尻雅美	水俣病被害を矮小化しようとする力:病名変更を求める看板から考える(特集 パッシング:救済を求められない社会)	ヒューマンライツ、376	16-20	2019	
* 25	田尻雅美	シリーズマイノリティの声 23 放置される水俣病 - 救済策によって強化される差別	ヒューマンライツ、357	22-25	2017	
26	萩原修子	書評 下地明友著『沖縄の医介輔の歴史と語りから見えてくるもの:ライフヒストリーと語り(Narrative) - 地域医療と沖縄の医介輔・中級医療職』	水俣学研究、9	129-131	2018	
27	萩原修子	水俣病事件と「もうひとつのこの世」	現代宗教 2018	111-132	2018	
28	東 俊裕	条約の実施体制と日本障害者の置かれている基礎的な社会構造から見た評価	福祉労働、163	8-24	2019	
29	東 俊裕	合理的配慮を提供する事業者側に求められる視点	リハビリテーション、604	26-29	2018	
30	東 俊裕	熊本地震:公的支援からこぼれ落ちる障害者	災害復興研究、10	99-104	2018	
31	東 俊裕	障害者権利条約と第 1 回日本政府報告の内容と課題:障害のある子どもに焦点を当てて	子どもの権利研究、29	129-141	2017	

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

32	東 俊裕	被災地における障害者支援	ヒューマンライツ、354	10-15	2017	
33	東 俊裕	熊本地震と被災障害者への支援活動	福祉労働、152	1-4	2016	
* 34	Yorifuji, et al.	Lessons from an early-stage epidemiological study of Minamata disease	J. Epidemiol., 30(1)	12-14	2020	有
35	Yorifuji, T., Kashima, S., Tani, Y., et al	Long-term exposure to fine particulate matter and natural-cause and cause-specific mortality in Japan	Environ. Epidemiol., 3(3)	E051	2019	有
36	頼藤貴志	大気汚染による健康影響 — 疫学研究の知見より	日本の科学者、53(5)	259-264	2018	
* 37	Yorifuji, T., Takaoka, S., Granjean, P.	Accelerated functional losses in ageing congenital Minamata disease patients	Neurotoxicol Teratol., 69	49-53	2018	有
* 38	Takaoka, S., Fujino, T., Kawakami, Y., Shigeoka, S., Yorifuji, T.	Survey of the extent of the persisting effects of methylmercury pollution on the inhabitants around the Shiranui Sea, Japan	Toxics, 6(3)	pii:E39	2018	有
* 39	Yorifuji, T., Kashima, S., et al	Temporal trends of infant and birth outcomes in Minamata after severe methylmercury exposure	Environ. Pollut., 231(Pt 2)	1586-1592	2017	有
* 40	Yorifuji, T., Tsuda, T.	Epidemiological studies of neurological signs and symptoms and blood pressure in populations near the industrial methylmercury contamination at Minamata, Japan	Arch. Environ. Occup. Health, 71(4)	231-236	2016	有
* 41	Yorifuji, T., Kado, Y., et al	Neurological and neurocognitive functions from intrauterine methylmercury exposure	Arch Environ. Occup. Health, 71(3)	170-177	2016	有
* 42	Yorifuji, T., Kashima, S.	Secondary sex ratio in regions severely exposed to methylmercury “Minamata disease”	Int. Arch. Occup. Environ. Health, 89(4)	659-665	2016	有
* 43	Yorifuji, T., Kato, T., et al	Intrauterine Exposure to Methylmercury and Neurocognitive Functions: Minamata Disease	Arch. Environ. Occup. Health, 70(5)	297-302	2015	有
* 44	頼藤貴志・入江沙織、他	水俣病における胎児期メチル水銀暴露 — 見過ごされてきた胎児期低・中濃度曝露による神経認知機能の影響	環境と公害、46(2)	52-58	2016	
* 45	頼藤貴志・入江沙織、他	胎児期メチル水銀曝露による神経認知機能:水俣病	水俣学研究、7	3-17	2016	有
* 46	頼藤貴志・津田敏秀・原田正純	水俣病:民主主義と正義のための挑戦	水俣学研究、6	103-138	2015	
47	除本理史	現代資本主義と「地域の価値」 — 水俣の地域再生を事例として	地域経済学研究、38号	1-16	2020	
48	牛島佳代・成元哲・向井良人・除本理史	福島から照射する水俣病をめぐる分断修復の現状と課題	中京大学現代社会学部紀要、13(2)	83-126	2019	
49	除本理史	公害地域再生の現代的課題:水俣市を事例として	環境と公害、48(3)	64-70	2019	
50	除本理史	戦争から表現へ:水俣の地域再生と石牟礼文学	現代思想、46(7)	224-231	2018	
51	除本理史	原発事故賠償と福島復興制作の5年間を振り返る:避難者に対する住まいの保障に着目して	経営研究、66(4)	185-195	2016	
52	除本理史	公害被害地域の再生に関する一試論:水俣「もやい直し」再考	経営研究、66(3)	31-48	2015	

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

53	飯嶋秀治	水俣と民族誌 — 石牟礼道子『苦海浄土 — わが水俣病』を中心に	九州人類学会報、42	3-7	2015	
54	大久保規子	環境と司法 環境団体訴訟はなぜ必要なのか — 環境民主主義の国際的潮流	世界、893	191-198	2017	
55	大久保規子	環境民主主義指標(EDI)の意義と課題	環境と公害、46(3)	38-43	2017	
56	大久保規子	PRTR 制度の国際的展開と市民参加	化学物質と環境、138	14-16	2016	
57	大久保規子	アジアにおける環境民主主義の展開	環境と公害、45(1)	36	2015	
58	尾崎寛直	公害問題とソーシャルワーク	ソーシャルワーク研究、45(2)	23-30	2019	
59	尾崎寛直	カネミ油症被害の「補償」問題 — 公害事件等との比較を交えて	環境と公害、48(4)	9-13	2019	
60	尾崎寛直	新たな大気汚染公害被害者救済制度はなぜ必要か	日本の科学者、53(5)	26-31	2018	
61	尾崎寛直	横断的比較による水俣病の補償システムの検証	環境と公害、44(4)	16-18	2015	
62	磯谷明德	制度経済学:一世紀の時を経て再生・復活 経済システムの多元性と進化の経済学へ	経済セミナー増刊	62-63	2015	
研究班2 環境負債を克服し地域再構築にむけた評価および民主主義的合意形成をめざす社会的実証研究						
63	戸渡洋子、宮北隆志	健康格差の縮小に向かう公衆衛生看護アプローチの検討 ~ A.センのケイパビリティ・アプローチを手がかりに	社会関係研究、24(2)	103-125	2019	
64	宮北隆志	大学内にインクルーシブな避難所を開設:家族・地域を丸ごと受け入れた熊本学園大学の取り組み	労働の科学、72(3)	142-147	2017	
65	宮北隆志	事例研究:化学工場における爆発災害管理とリスクコミュニケーション(監訳)	水俣学研究、7	87-106	2016	
66	宮北隆志	<現地報告>2016年熊本地震 — 被災者とともに震災と向き合った14号館避難所の45日間	環境と公害、46(2)	59	2016	
67	中地重晴	PRTR 制度と情報活用の改善のための提案	化学物質と環境、158	4-6	2019	
*68	中地重晴	水銀条約汚染サイトとしての水俣市の環境評価	総合科学、24(1)	83-97	2019	
69	中地重晴	有害物質含有消費者製品の廃棄・処分の現状と課題 — Tウオッチによるアンケート調査から	労働の科学、72(11)	33-37	2017	
70	中地重晴	廃棄物による健康リスク	日本医師会雑誌、146(特別号2)	221-224	2017	
71	中地重晴	豊島の教訓とは何か	環境管理、53(10)	34-41	2017	
72	中地重晴	熊本地震の被災地におけるアスベストの飛散防止と廃棄物処理の課題	労働の科学、72(3)	20-25	2017	
73	中地重晴	水俣で学ぶ環境保護を取り入れた中小企業における参加型職場環境改善活動	労働の科学、71(5)	304-307	2016	
74	中地重晴	災害時のアスベスト問題 ~ 阪神淡路大震災から東日本大震災まで ~	環境技術、44(5)	242-248	2015	
75	黒木邦弘・花田昌宣・高木亨・那須久吏	平成28年(2016)熊本地震と熊本学園大学避難所運営:避難所の方針と災害ソーシャルワーク実践の一考察	社会福祉研究所報、47	169-185	2019	

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

76	Sakamoto, M., Itai, T., Marumoto, K., Marumoto, M., Kodamatani, H., Tomiyasu, T., Nagasaka, H., et al	Mercury speciation in preserved historical sludge: Potential risk from sludge contained within reclaimed land of Minamata Bay, Japan	Environmental Research, 180	108668 (doi: 10.1016/j.envres.2019.108668)	2019	有
77	富安卓滋	火山噴火と大気環境－第5講 火山噴出の大気動態・環境影響－③水銀	大気環境学会誌, 51(2)	20-28	2016	
研究班3 水俣学アーカイブスを通じた知の集積と国際的情報発信拠点の形成						
78	井上ゆかり	水俣病多発漁村に生まれ育った第二世代の苦悩	部落解放, 724	12-18	2016	
79	矢野治世美	災害と被差別民: 部落史から災害を考える	部落解放研究くまもと, 79	67-80	2020	
80	矢野治世美	書評 入口善久著『蘆花と水俣』	水俣学研究, 9	59-60	2019	
81	矢野治世美	部落差別と水俣病差別: 羽江忠彦『七生まで忘れんばい』を読む	部落解放研究くまもと, 78	25-40	2019	
82	矢野治世美	天草の被差別民	部落解放研究くまもと, 77	71-106	2019	
83	矢野治世美	史料でみる近世の水俣: 色川大吉「不知火海民衆史」への疑問から	部落解放研究くまもと, 76	108-127	2018	
84	高峰 武	書評 下地明友著『〈病〉のスペクトル 精神医学と人類学の遭遇』	水俣学研究, 8	89-100	2018	
85	高峰 武	解題 水俣病公式確認と猫実験の時代 — 伊藤蓮雄・元水俣保健所長のテープについて	水俣学研究, 8	61-68	2018	
86	高峰 武	石牟礼道子さんが見ていた世界	週刊金曜日	23-27	2018	
87	高峰 武	水俣病を見続ける視点	ごんずい, 72	35-36	2018	

<図書>

No.	著者名	図書名	出版社名	ページ数	発行年
研究班1 水俣病被害の多面性に着目した問題解決のための包括的研究					
* 88	Hanada, M., et al (eds.)	A Walk to Learn about Minamata Disease (水俣学ブックレット No.16)	熊本日日新聞社	136 頁	2020
89	花田昌宣	3.11 を心に刻んで(岩波書店編集部編『3.11 を心に刻んで』)	岩波ブックレット 1021	35-36	2020
90	花田昌宣	国際水銀条約発効の意義と課題 水俣の教訓をもとに(世界人権宣言大阪連絡会議編『国際人権規約連続学習会講演録, 2018』)	部落解放・人権研究所	33-44	2019
* 91	中地重晴・花田昌宣・田尻雅美・井上ゆかり(編)	ガイドブック 水俣病を学ぶ、水俣の歩き方(水俣学ブックレット 16)	熊本日日新聞社	83 頁	2019
* 92	守弘仁志・中地重晴・井上ゆかり・花田昌宣・田尻雅美・斎藤靖史・田中久稔・藤本延	水俣病公式確認 60 年アンケート調査最終報告書	熊本学園大学水俣学研究センター	134 頁	2019

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

	啓				
* 93	花田昌宣	水俣病被害とその影響をふまえた水俣地域市民社会の再生に関する総合的研究	科学研究費助成事業研究成果報告書		2019
94	花田昌宣	水俣病の現在と差別・偏見(部落解放・人権研究所編 95『被差別マイノリティのいま』)	解放出版社	298-304	2017
95	花田昌宣・久保田好生(編)	いま何が問われているか:水俣病の歴史と現在	くんぷる	256 頁	2017
96	花田昌宣・田尻雅美(編)	水俣病問題のいま:差別禁止法制定を求める当事者の声⑨	部落解放・人権研究所	146 頁	2017
* 97	花田昌宣(編)	水俣学研究資料叢書IV「不知火海の漁師聞き書き」	熊本学園大学水俣学研究センター	263 頁	2017
* 98	花田昌宣・中地重晴(編)	水俣病60年の歴史の証言と今日の課題(水俣学ブックレット 15)	熊本日日新聞社	107 頁	2016
99	花田昌宣	原田正純著『いのちの旅 「水俣学」への軌跡』解説	岩波書店	201-222	2016
* 100	中地重晴・花田昌宣(編)	九州・熊本の産業遺産と水俣(水俣学ブックレット 14)	熊本日日新聞社	149 頁	2016
101	花田昌宣	なぜ水俣病が終わらないのか - 現在の課題にふれて(衆議院調査局環境調査局『水俣病問題の概要』)	衆議院調査局	95-100	2015
102	下地明友、他訳	マッド・トラベラーズ - ある精神疾患の誕生と消滅(イアン・ハッキング著)	岩波書店	360 頁	2017
103	下地明友、他訳	精神医学歴史事典(エドワード・ショーター著)	みすず書房	480 頁	2016
* 104	下地明友	〈病い〉のスペクトル - 精神医学と人類学の遭遇	金剛出版	368 頁	2015
* 105	田尻雅美	胎児性・小児性水俣病の社会福祉的ケアの課題と将来への展望～被害の多様性を踏まえた分析～	熊本学園大学大学院社会福祉学研究科博士論文	133 頁	2016
106	田尻雅美	家族と介護者(池田理知子、他編『よくわかるヘルス・コミュニケーション』)	ミネルヴァ書房	116-117	2016
* 107	田尻雅美	水俣病の補償・救済制度の限界—水俣病未解決がもたらすもの(水俣学ブックレット 15)	熊本日日新聞社	55-67	2016
108	萩原修子	水俣病事件における「再生する力」の社会・宗教・民俗学的研究	科学研究費助成事業研究成果報告書		2015
109	除本理史	曖昧にされる被害補償の責任 - 福島と水俣の共通性(花田・久保田編『いま何が問われているか 水俣病の歴史と現在』)	くんぷる	147-163	2017
110	除本理史	未来のために学ぶ四大公害病	岩崎書店	22 頁	
111	除本理史	公害から福島を考える - 地域の再生をめざして	岩波書店	224 頁	2016
112	大久保規子・高村ゆかり、他編	環境規制の現代的展開(大塚直先生還暦記念論文集)	法律文化社	530 頁	2019
113	大久保規子、他	はじめての行政法 4 版	有斐社	298 頁	2018
114	尾崎寛直	「食品公害」問題における補償制度の欠陥 - 公害事件等における政策形成の比較から(科学研究費補助金基盤研究(B)「宮本憲一氏収集資料を活用した環境政策形成史に関する研究」研究代表者:碓山洋)	科学研究費助成事業研究成果報告書		2020
115	尾崎寛直	職業病・労働災害と公害問題(環境経済・政策学会編)	丸善出版	112-113	2018

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

		『環境経済・政策学事典』			
116	尾関周二・ 保母武彦・ 尾崎寛直 (編)	「環境を守る」とはどういうことか ― 環境思想入門	岩波書店	63 頁	2016
研究班2 環境負債を克服し地域再構築にむけた評価および民主主義的合意形成をめざす社会的実証研究					
117	宮北隆志	ヘルスプロモーションの理念と健康格差(池田理知子、他編『よくわかるヘルスコミュニケーション』)	ミネルヴァ書房	128-129	2016
* 118	中地重晴	水銀条約と水俣の課題(花田・久保田編『いま何が問われているか 水俣病の歴史と現在』)	くんぶる	107-145	2017
* 119	森下直紀	カナダ水俣病事件の現在:世界に潜在する水俣病患者救済のために(花田・久保田編『いま何が問われているか』)	くんぶる出版	127-145	2017
120	森下直紀	千湖に生きるひとびと:水をめぐるオジブエたちの半世紀(渡部公三、他編『異貌の同時代:人類・学・の外へ』)	以文社	171-207	2017
121	森下直紀	水俣病事件史にみる公害と人権(李修京編『グローバル社会と人権問題』)	明石書店	175-180	2015
122	富安卓滋	ミナマタ湾埋め立て地に眠るヘドロ中水銀の化学形態別分析によるリスク評価(科学研究費助成事業・基盤研究(C)研究分担)	科学研究費助成事業 成果報告書		2019
研究班3 水俣学アーカイブスを通じた知の集積と国際的情報発信拠点の形成					
* 123	井上ゆかり	生き続ける水俣病 漁村の社会学・医学的実証研究	藤原書店	346 頁	2020
124	井上ゆかり	水俣病多発漁村住民の水銀曝露と健康障害および補償給付の連環の実証的研究	科学研究費助成事業 研究成果報告書		2019
125	井上ゆかり	権力に被害を叫ぶことからはじまる水俣病 岩本美智代解題(花田・久保田編『いま何が問われているか ～水俣病の歴史と現在』)	くんぶる	205-216	2017
* 126	岩本廣喜 著、井上ゆかり編	海録 女島に生きた漁民(水俣学研究資料叢書V)	熊本学園大学水俣 学研究センター	165 頁	2016
127	井上ゆかり	水俣病多発漁村における漁民・漁業被害の多重連環 ― 熊本県芦北町女島での社会学ならびに医学的調査による実証研究	熊本学園大学大学 院社会福祉学研究 科博士論文	178 頁	2016
128	高峰 武	石牟礼道子さんの「眼差し」(石牟礼道子資料保存会編『残夢童女 石牟礼道子追悼文集』)	平凡社	209-223	2020
129	高峰 武	書くことが生きる証だった石牟礼さん(石牟礼道子・田中優子・高峰武・宮元成美編著『追悼 石牟礼道子 毒死列島 身悶えしつつ』)	金曜日	7-28	2018
130	高峰 武	8のテーマで読む水俣病	弦書房	232 頁	2018
131	高峰 武	20 世紀の水俣病(花田・久保田編『いま何が問われているか 水俣病の歴史と現在』)	くんぶる	9-65	2017
132	高峰 武	水俣病を知っていますか	岩波ブックレット	72 頁	2016
133	高峰 武	「負の歴史」からたどる水俣病(衆議院調査局環境調査室『水俣病問題の概要』)	衆議院調査局	101-104	2015

<学会発表>

No.	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
研究班1 水俣病被害の多面性に着目した問題解決のための包括的研究					

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

134	花田昌宣	「水俣病」の将来を構想する: 被害者の犠牲者非難の構図からの脱出	第15回水俣病事件研究交流集会	水俣市	2020年1月
* 135	花田昌宣	水俣と水俣病の将来を構想する — 水俣学研究の到達点	私立大学戦略的研究基盤形成支援事業成果報告シンポジウム	熊本市	2019年12月
* 136	花田昌宣	<i>Experience of Minamata Disease and Role of Open Research Center for Minamata Studies</i>	Symposium for Post Humidifier Disinfectant Disaster Research Center	ソウル市	2019年10月
137	花田昌宣	第3回国際フォーラムの課題: 失敗の教訓を将来に活かす	第3回環境被害に関する国際フォーラム(基調講演)	熊本市	2019年2月
* 138	花田昌宣	水俣病被害の現状と補償制度の課題	水俣病事件と加湿器殺菌剤惨事日韓ワークショップ	水俣市	2019年2月
139	花田昌宣	水俣避病院と水俣病差別	第14回水俣病事件研究交流集会	水俣市	2019年1月
* 140	花田昌宣	第一プロジェクト「水俣病被害の多面性に着目した問題解決のための包括的研究」と総括(水俣学研究センター戦略的研究基盤形成支援事業第2期目の中間報告)	第13回水俣病事件研究交流集会	水俣市	2018年1月
141	花田昌宣	研究と実践をつなぐ新たな研究モードの創生: 水俣学から熊本地震へ	社会デザイン学会	東京都	2017年12月
142	花田昌宣	大規模災害と社会連帯経済: 東北と熊本の経験から	第7回日韓社会的企業セミナー	ソウル市	2017年12月
143	花田昌宣	水俣病61年と水俣学の展開	第5回水俣学若手研究セミナー	水俣市	2017年9月
* 144	花田昌宣	日本とカナダの水俣病問題の現状と課題	水俣病公式確認60年国際シンポジウム「カナダ先住民の水俣病と水銀汚染」	町田市 熊本市	2017年2月
145	井上ゆかり・ 田尻雅美・ 花田昌宣・ 下地明友・ 中地重晴・ 宮北隆志	平成28年度熊本地震と避難所運営に関する健康医療支援体制について	第75回日本公衆衛生学会総会	大阪市	2016年10月
* 146	<u>Hanada, M.</u>	Lessons from the history of Minamata Disease and current challenges in the international community	International conference. 'Minamata@60: Learning from Industrial Disaster toward Sustainable Society and Environment	バンコク市	2016年9月
147	花田昌宣	水俣病をいかに伝えていくか — 被害現地住民との対話をめざす「水俣学」構築の試み —	シンポジウム「公害をいかに伝えていくか — 東アジア近現代史の視点から」	横浜市	2016年3月
148	花田昌宣	水俣病差別研究の課題と方法	第11回水俣病事件研究交流集会	水俣市	2016年1月
149	下地明友	医療人類学から見た多文化共生社会: The open(開かれ)とThe between(あいだ) — heteroglossia(異言語混淆) — 未来の精神医学: 小さな声は(かき消される声)は止むことがない	第37回日本社会精神医学会	京都市	2018年3月
150	下地明友	不思議な場所としての多文化間精神医学	第24回多文化間精神医学会学術大会	東京	2017年11月
* 151	田尻雅美・ 井上ゆかり	「紛争」解決としての水俣病施策—終わることのできない水俣の今	第3回環境被害に関する国際フォーラム	熊本市	2019年2月
* 152	田尻雅美	Staying close to the Minamata	Japan-ASEAN Medial Seminar on Human	インドネ	2019年5月

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

152		disease patients	Health Impact of Heavy Metals	シア	
* 153	<u>田尻雅美</u>	健康・医療・福祉相談から見える水俣病被害の実態と施策の課題 ― 被害者が求めるもの	私立大学戦略的研究基盤形成支援事業成果報告シンポジウム	熊本市	2019年12月
154	<u>田尻雅美</u>	水俣病の差別	第3回差別禁止法制定をめぐる当事者の集い	神戸市	2018年1月
155	<u>田尻雅美</u>	分科会5 差別禁止法の実現をめざして「水俣病」	第32回人権啓発集会	神戸市	2018年1月
156	<u>田尻雅美</u>	終わらない水俣病	第49回食とみどり、水を守る全国集会 in 熊本	熊本市	2017年11月
* 157	<u>Tajiri, M.</u>	60 years of Fetal Minamata Disease Patients	International conference. Minamata@60: Learning from Industrial Disaster toward Sustainable Society and Environment	バンコク市	2016年9月
158	<u>頼藤貴志</u>	胎児期メチル水銀曝露に関する疫学研究のまとめ	第15回水俣病事件研究交流集会	水俣市	2020年1月
159	<u>頼藤貴志</u>	疫学方法論とその応用: 水俣病の事例を通して	第12回新潟青陵学会学術集会	新潟市	2019年11月
160	<u>頼藤貴志</u>	水俣病の疫学	第3期水俣病大学	東京	2019年5月
161	<u>頼藤貴志</u>	胎児性水俣病患者さんの日常生活動作(ADL)の変化	第14回水俣病事件研究交流集会	水俣市	2019年1月
* 162	<u>頼藤貴志</u>	水俣における周産期・乳児期の健康アウトカムの時間的トレンドについて	第13回水俣病事件研究交流集会	水俣市	2018年1月
* 163	<u>頼藤貴志</u>	水俣病における胎児性メチル水銀曝露	第12回水俣病事件研究交流集会	水俣市	2017年1月
164	<u>頼藤貴志</u>	被害の全体像を考える ～ メチル水銀の健康影響に関する疫学研究を踏まえて～	水俣病事件 60 年を問うシンポジウム	水俣市	2016年2月
165	<u>頼藤貴志</u>	最近行った疫学研究の報告	第11回水俣病事件研究交流集会	水俣市	2016年1月
166	<u>尾崎寛直・ 除本理史</u>	「もやい直し」の現代的意義を再考する	第14回水俣病事件研究交流集会	水俣市	2019年1月
168	<u>飯嶋秀治</u>	漁村での10年 ― 見えたこと、見えなかったこと	第14回水俣病事件研究交流集会	水俣市	2019年1月
169	<u>飯嶋秀治</u>	石牟礼道子(1927-)	課題研究懇談会「応答の人類学」第33回研究会	能美市	2018年1月
170	<u>飯嶋秀治</u>	海外での水俣表象	第12回水俣病事件研究交流集会	水俣市	2017年1月
171	<u>飯嶋秀治</u>	漁村の文脈 ― 発達課題に臨む(シンポジウム「環境災害と宗教学」)	西日本宗教学会第6回学術大会	福岡市	2016年3月
172	<u>飯嶋秀治</u>	生人からGS(グリーンスポーツ)へ	第11回水俣病事件研究交流集会	水俣市	2016年1月
173	<u>尾崎寛直</u>	一般廃棄物の単独処理と広域処理の課題	第7回「21世紀の多摩学」研究会	国分寺市	2019年10月
174	<u>尾崎寛直</u>	福祉コミュニティと災害 ～ 要援護者を地域で支えるしくみ	樺友回 2019年講演会	国分寺市	2019年6月
175	<u>尾崎寛直</u>	「地域づくり」分科会コメンテーター、「公害入門」コーディネーター	第6回公害資料館連携フォーラム	町田市	2018年12月
176	<u>尾崎寛直</u>	各種社会的災害の補償システムの比較研究から被ばく補償を考える	第2回トヨタ財団助成研究共同研究会	広島市	2018年11月

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

177	<u>尾崎寛直</u>	放射能汚染による健康被害者の援護制度構築に向けて ～ 被爆者援護制度からの教訓とヒント	第 4 回原発と人権 全国交流集会	福島市	2018 年 7 月
178	<u>尾崎寛直</u>	ヒロシマ・ナガサキ、ミナマタ、フクシマ 繰り返される問題構造と解決の糸口	新潟水俣病シンポジウム	新潟市	2016 年 10 月
179	<u>磯谷明徳</u>	山田鋭夫他『市民社会と民主主義』(藤原書店、2018 年)への総括コメント	進化経済学会・現代日本の経済制度部会	大阪市	2018 年 11 月
180	<u>磯谷明徳</u>	「制度主義的転回」後の制度経済学:新たな展開の可能性	進化経済学会・現代日本の経済制度部会	大阪市	2018 年 7 月
研究班2 環境負債を克服し地域再構築にむけた評価および民主主義的合意形成をめざす社会的実証研究					
* 181	<u>中地重晴</u>	水俣川河口臨海振興構想を考える	第 15 回水俣病事件研究交流集会	水俣市	2020 年 1 月
* 182	<u>中地重晴</u>	水俣の健康リスクと環境リスクを再検討する	私立大学戦略的研究基盤形成支援事業成果報告シンポジウム	熊本市	2019 年 12 月
* 183	<u>中地重晴</u>	水俣湾に埋め立てられた水銀と水銀条約の課題	熊本学園大学 2019 年度特別セミナー	熊本市	2019 年 8 月
184	<u>中地重晴</u>	豊島の原状回復の今後の課題	豊島学(楽)会第 13 回研究発表会	香川県豊島	2019 年 4 月
185	<u>中地重晴</u>	水俣とカナダの汚染サイトの修復について	第 3 回環境被害に関する国際フォーラム	熊本市	2019 年 2 月
186	<u>中地重晴</u>	日本における水銀規制の現状と今後の課題	第 14 回水俣病事件研究交流集会	水俣市	2019 年 1 月
187	<u>中地重晴</u>	豊島処分地の現状と地下水汚染対策の課題	豊島学(楽)会第 12 回研究発表会	水俣市	2018 年 4 月
188	<u>中地重晴</u>	第二プロジェクト「環境負債を克服し地域再構築にむけた評価および民主主義的合意形成をめざす社会的実証研究」(水俣学研究センター戦略的研究基盤形成支援事業第 2 期目の中間報告)	第 13 回水俣病事件研究交流集会	水俣市	2018 年 1 月
189	<u>中地重晴</u>	産廃特措法の施行状況と原状回復後の跡地利用の課題について	豊島学(楽)会第 11 回研究発表会	大阪市	2017 年 4 月
* 190	<u>中地重晴</u>	水俣市民の食品からの水銀摂取の現状について	第 12 回水俣病事件研究交流集会	水俣市	2017 年 1 月
* 191	<u>中地重晴</u>	水俣地域周辺における水銀汚染について — みなまた地域研究会調査から見えてきたこと	水俣学研究センター第 31 回定例研究会	熊本市	2016 年 11 月
* 192	<u>中地重晴</u>	水銀条約の批准に向けた水銀新法の成立と日本の課題	第 11 回水俣病事件研究交流集会	水俣市	2016 年 1 月
* 193	<u>中地重晴・宮北隆志</u>	水俣市における土壌中の高濃度水銀汚染について	第 74 回日本公衆衛生学会総会	大阪市	2015 年 11 月
* 194	<u>守弘仁志</u>	水俣病公式確認 60 年アンケート調査結果から	第 13 回水俣病事件研究交流集会	水俣市	2018 年 1 月
* 195	<u>藤本延啓</u>	水俣市円卓会議の経緯とゼロ・ウェイスト政策	私立大学戦略的研究基盤形成支援事業成果報告シンポジウム	熊本市	2019 年 12 月
196	<u>藤本延啓</u>	豊島問題の社会史 — 不法投棄事件は人々と社会に何をもたらしたか	日本平和学会 2017 年度秋季研究集会	高松市	2017 年 11 月
197	<u>藤本延啓</u>	被災・復旧・復興の個別性と全体性 — 西原村における熊本地震災害支援から	第 43 回山口地域社会学会総会研究集会	山口市	2017 年 7 月
198	<u>藤本延啓</u>	不法投棄事案における「問題」「被害」「解決」 — 豊島住民のライフストーリーから	第 73 回西日本社会学会	山口市	2015 年 5 月

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

* 199	森下直紀	カナダ水俣病: アニシナベ先住民の伝統的生活と同化政策	規範×秩序研究会	加賀市	2019年8月
* 200	森下直紀	公害対策による見えざるアニシナベ先住民への同化政策	環境社会学会	東京都	2019年6月
* 201	森下直紀	カナダ・オジブエ先住民 水銀被害の歴史と現在－カナダの水俣病－	和光大学地域連携研究センター主催 公開シンポジウム	町田市	2017年2月
* 202	森下直紀	カナダ水俣病事件の現状について	第13回水俣病事件研究交流集会	水俣市	2018年1月
203	Sakamoto T. K., Marumoto, K., Mori, K., Horvat, M., Poulain, S., Kodamatan i, H. m Tomiyasu, T.	Mercury speciation in preserved sludge which is estimated to be remaining under the reclaimed land area of Minamata Bay, Japan	4 th International Conference on Environmental and Economic Impact on Sustainable Development	ナポリ (イタリア)	2018年6月
204	Sakamoto, M., Itai, T., Narumoto, K., Mori, K., Horvat, M., Poulain, A., Kodamatan i, H., Tomiyasu, T.	Mercury speciation in preserved sludge which is estimated to be remaining under the reclaimed land area of Minamata Bay, japan	53 rd Congress of the Euro Societies of Tpxocplogy	ブラステイラバ (スロヴァキア)	2017年9月
研究班3 水俣学アーカイブ構築の試み					
* 205	井上ゆかり	水俣学アーカイブを活用した 研究拠点形成に関する実証的研究 ―水俣の知識インフラの拡充に向けて	私立大学戦略的研究基盤形成支援事業成果報告シンポジウム	熊本市	2019年12月
206	井上ゆかり	避難所における健康医療支援の意味と水俣学	平成 28 年熊本地震から 2 年熊本震災と障害者を受け入れた避難所資料展特別セミナー	熊本市	2019年2月
207	井上ゆかり・田尻雅美・佐藤スエミ	何が水俣病差別を生み出すのか	差別禁止法研究会第 4 回当事者の集い	新潟市	2019年2月
* 208	井上ゆかり	第三プロジェクト「水俣学アーカイブを通じた知の集積と国際的情報発信拠点の形成」(水俣学研究センター戦略的研究基盤形成支援事業 2 期目の中間報告)	第 13 回水俣病事件研究交流集会	水俣市	2018年1月
209	井上ゆかり	地域の縮図となる避難所で何が問われたか ―「熊本学園モデル」とよばれた 45 日間	第 8 回日本世代間交流学会	熊本市	2017年10月
* 210	井上ゆかり・花田昌宣・田尻雅美	「公害」水俣病の記憶を伝える ― 水俣学の基底	うつくしま福島未来支援センター研究会	福島市	2017年3月
* 211	井上ゆかり・花田昌宣・田尻雅美	「震災」熊本地震後の資料復旧と『公害』水俣病の記憶を伝える意味	フクシマの復興の歩みを学術的視点から海外に発信するシンポジウム	福島市	2017年3月
* 212	井上ゆかり・花田昌宣・守弘仁志	今なお解決をみない水俣病事件を次世代に「伝える」ネットワーク形成	社会情報学会九州・沖縄支部 2016 年度研究会	福岡市	2017年2月
* 213	井上ゆかり	「水俣」をみつめるためのデータベース作成事業 ― 水俣学の試み	第 4 回公害資料館連携フォーラム in 水俣	水俣市	2016年12月
214	井上ゆかり	避難所での健康・医療支援の意味と水俣学	熊本学園大学熊本地震シンポジウム	熊本市	2016年11月

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

215	井上ゆかり	水俣病多発漁村における漁民・漁業被害の多重連環	水俣病事件 60 年と福島複合災害 5 年～研究者として考える福島大学基盤研究 S チーム公開ワークショップ	福島市	2016 年 3 月
216	井上ゆかり	医学的調査と社会学的調査でみる漁民被害の実態	水俣病臨床研究会	水俣市	2016 年 1 月
218	矢野治世美	史料でみる近世の水俣 — 船津村の位置づけをめぐって	第 14 回水俣病事件研究交流集会	水俣市	2019 年 1 月
219	高峰 武	小さな声に耳を傾けたか	日本コミュニケーション学会九州支部大会	福岡市	2019 年 11 月
217	高峰 武	小さな声に耳を傾けたか	福島政経懇話会	福島市	2019 年 9 月
218	高峰 武	ピアレビュー「水俣病を知っていますか」	第 11 回水俣病学術資料調査研究推進室セミナー	熊本市	2016 年 10 月

<研究成果の公開状況>(上記以外)

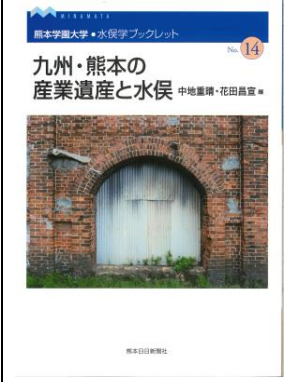


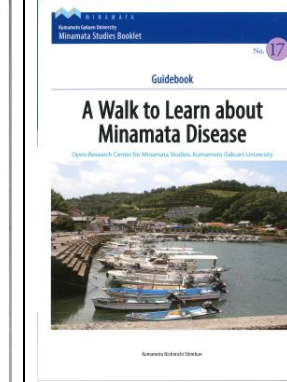
シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等

<既に実施しているもの>

I. 水俣学研究センター刊行物 <http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/books/>

1. 水俣学ブックレット <http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/booklet/>

No.	タイトル	著者・編著者	発行年月
No.14	「九州・熊本の産業遺産と水俣」	中地重晴・花田昌宣	2016 年 3 月
No.15	「水俣病 60 年の歴史の証言と今日の課題」	花田昌宣・中地重晴	2016 年 6 月
No.16	「ガイドブック 水俣病を学ぶ、水俣の歩き方」	水俣学研究センター	2019 年 3 月
No.17	「A Walk to Learn about Minamata Disease」	水俣学研究センター	2020 年 3 月

			
---	---	--	---

2. 研究紀要 <http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/bulletin/>

No.	編集	発行年月
水俣学研究第 7 号	水俣学研究編集委員会	2016 年 9 月
水俣学研究第 8 号	水俣学研究編集委員会	2018 年 9 月
水俣学研究第 9 号	水俣学研究編集委員会	2019 年 9 月

3. 資料叢書 <http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/publication/>

No.	タイトル	著者・編著者	発行年月
V	「海録 女島に生きた漁民」	岩本廣喜著 井上ゆかり編	2016 年 3 月 30 日
VI	「不知火海の漁師聞き書き」	花田昌宣 編集	2017 年 3 月 30 日

4. 「地域健康影響評価 タイ・チャチェンサオ県、パノムサーラカム郡、タンボン Khao Hinsorn における石炭火力発電所の事例」 監訳：宮北隆志、翻訳：松田加洋子、協力：吉村千恵、2015 年 6 月 <http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/publication/>

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

- 「水俣病公式確認 60 年アンケート調査報告書」水俣学研究センター編著 2019 年 2 月
- 「生き続ける水俣病—漁村の社会学・医学的実証研究」井上ゆかり著、藤原書店、2020 年 3 月
http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/topics_10616.html
- 水俣学通信（水俣学研究センター情報紙） 第 40 号～59 号
http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/minamata_tsushin/



Ⅱ. 水俣学講義 <http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/seminar/seminar01/>

第 14 期 水俣学講義 2015 年 9 月 24 日～2016 年 1 月 24 日 全 15 回

開催月日	タイトル	講師
9 月 24 日	水俣学へのいざない:水俣病事件の歴史と現在	花田昌宣(熊本学園大学水俣学研究センター長)
10 月 1 日	行政不服審査請求から水俣病認定制度を検討する	井上ゆかり(熊本学園大学水俣学研究センター)
10 月 8 日	フクシマからミナマタを考える	山田真(八王子中央診療所理事長・小児科医)
10 月 15 日	胎児性・小児性水俣病患者 放置された人々	田尻雅美(熊本学園大学水俣学研究センター)
10 月 22 日	水俣病とともに	下田良雄・下田綾子(水俣病患者)
10 月 29 日	私の活動の中で水俣病から学んだこと	川合仁(京都現代医学研究所・川合診療所・精神科医)
11 月 5 日	DVD 上映	
11 月 12 日	災害ボランティアの心構え～水俣—阪神淡路大震災—東日本大震災～	村井雅清(阪神淡路大震災被災地 NGO 協働センター)
11 月 19 日	初めに水俣ありき	山上徹二郎((株)シグロ代表取締役・映画プロデューサー)
11 月 26 日	「負の遺産」としての水俣病事件の経験を活かした水俣・芦北地域の再構築に向けた歩みと今後の課題	宮北隆志(熊本学園大学水俣学現地研究センター長)
12 月 3 日	水俣市及び水俣湾周辺の水銀による環境汚染の過去と現在、未来	中地重晴(熊本学園大学水俣学研究センター事務局長)
12 月 10 日	足尾・水俣・福島—通底する公害の構造—	菅井益郎(国学院大学経済学部)
12 月 17 日	「水俣病を告発する会、京都」、駆け出しの頃といま	大津定美(神戸大学名誉教授・「NPO.ミャンマー農村に小水力発電を」理事)
1 月 7 日	人間(ひと)がつくるジャーナリズム	井上佳子(熊本放送報道制作局テレビ制作部チーフディレクター)
1 月 14 日	水俣病発生公式確認 60 年を迎えて:いま考えるべきこ	花田昌宣(熊本学園大学水俣学

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

と		研究センター長)
第 15 期 水俣学講義 2016 年 9 月 29 日～2017 年 1 月 19 日 全 15 回		
開催月日	タイトル	講師
9 月 29 日	水俣学へのいざない:水俣病事件の歴史と現在	花田昌宣(熊本学園大学水俣学 研究センター長)
10 月 6 日	胎児性・小児性水俣病患者にとっての水俣病	田尻雅美(熊本学園大学水俣学 研究センター)
10 月 13 日	私にとっての水俣病	中村雄幸(熊本水俣病を告発する 会)
10 月 20 日	水俣病とわたし	坂本しのぶ(水俣病患者)・谷由布
10 月 27 日	DVD 上映	
11 月 10 日	水俣病公式確認 60 年と報道のいま	田中久稔(朝日新聞)
11 月 17 日	水俣病問題と差別禁止法	谷川雅彦(部落解放・人権研究所 所長)
11 月 24 日	水俣病と環境権の国際的展開	大久保規子(大阪大学法学研究 科法学・政治学専攻)
12 月 1 日	ある漁村の世帯でみる生産され続ける水俣病被害	井上ゆかり(熊本学園大学水俣学 研究センター)
12 月 8 日	私たちの水俣病	岩本昭則、敬子(水俣病患者)
12 月 15 日	水俣病と医学	高岡滋(みなまた協立クリニック)
12 月 22 日	東京からの「定点支援」47 年 得したか損したか	久保田好生(東京水俣病を告発 する会)
1 月 5 日	水俣を水銀条約の汚染サイトとして評価する	中地重晴(熊本学園大学水俣学 研究センター事務局長)
1 月 12 日	水俣病の公式確認から 60 年～その「責任」と「償い」 は?～	宮北隆志(熊本学園大学水俣学 現地研究センター長)
1 月 19 日	世界の水俣病 カナダ調査の報告	花田昌宣(熊本学園大学水俣学 研究センター長)
第 16 期 水俣学講義 2017 年 9 月 21 日～2018 年 1 月 25 日 全 15 回		
開催月日	タイトル	講師
9 月 21 日	水俣学への招待	花田昌宣(熊本学園大学水俣学 研究センター長)
9 月 28 日	水銀条約の発効と水銀規制に関する世界の課題、日 本の課題	中地重晴(熊本学園大学水俣学 研究センター事務局長)
10 月 5 日	水俣病事件とアジアの産業公害そして水銀条約 COP1	谷洋一(水俣病被害者互助会事 務局・NPO 法人水俣病協働センタ ー理事)
10 月 12 日	「水俣」を伝える	平野恵嗣(共同通信社国際局海 外部記者)
10 月 19 日	水俣病補償協定締結訴訟の意義	大川一夫(弁護士・龍谷大学法学 部非常勤講師)
10 月 26 日	DVD 上映	吉永理巳子(水俣病を語り継ぐ会)
11 月 9 日	水俣に生まれて	

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

11月16日	医学的に隠された水俣病被害の実態を明らかにしてきた47年の取り組み	代表) 藤野 紘(水俣病訴訟支援公害をなくす県民会議医師団団長)
11月30日	水俣の声を記録し伝える 熊本から全国へそして世界へ	大木 真美(熊本県民テレビ)
12月7日	胎児性・小児性水俣病患者～被害を訴え続ける～	田尻 雅美(熊本学園大学水俣学研究センター)
12月14日	〈水俣〉と出会う 埼玉大学水俣合宿の取り組みから	安藤 聡彦(埼玉大学教育学部教授)
12月21日	水俣病の診察を通して―「素」の診察―臨床医学にこだわってみる	下地 明友(熊本学園大学水俣学研究センター)
1月11日	水俣病の公式確認と猫実験の頃	高峰 武(熊本日日新聞論説顧問)
1月18日	漁村のくらしをみつめ水俣病被害をとらえなおす	井上 ゆかり(熊本学園大学水俣学研究センター)
1月25日	まとめ 水俣病をめぐる今後の課題	花田 昌宣(熊本学園大学水俣学研究センター)

第17期 水俣学講義 2018年9月20日～2019年1月24日 全15回

開催月日	タイトル	講師
9月20日	水俣学への招待:水俣病事件の歴史と現在	花田 昌宣(熊本学園大学水俣学研究センター長)
9月27日	県立環境と人間のふれあい館(新潟水俣病資料館)の紹介	塚田 眞弘(県立環境と人間のふれあい館(新潟水俣病資料館)館長)
10月4日	石牟礼道子のこと	藤原 良雄(株式会社 藤原書店 社長)
10月11日	終わることのできない水俣病の今	井上 ゆかり(熊本学園大学水俣学研究センター)
10月18日	水俣の海に生きる	鴨川 強巳(漁師)、中村 雄幸(中村 鮮魚)
10月25日	私と水俣病	坂本 龍虹(水俣病被害市民の会 代表)
11月8日	水俣病の社会福祉	田尻 雅美(熊本学園大学水俣学研究センター)
11月15日	水俣病をとおして見えてきたもの	村田 三郎(社会医療法人 阪南医療福祉センター 阪南中央病院 副院長)
11月22日	ひとり芝居 天の魚	川島 宏知(俳優)、白木 喜一郎(舞台監督、「天の魚」出前プロジェクト代表)
11月29日	水銀条約の今	中地 重晴(熊本学園大学水俣学研究センター事務局長)
12月6日	遅れて来た者の支援活動	小坂 勝弥(京都・水俣病を告発する会)
12月13日	「司法による救済」を選択すること	康 由美(大阪弁護士会)

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

12月20日	DVD 上映	
1月10日	砂田明一人芝居「天の魚」からの始まり	家中茂(鳥取大学地域学部)
1月24日	水俣病の現在と水俣病被害 水俣病 60 年アンケート結果から	花田昌宣(熊本学園大学水俣学研究センター長)

第 18 期 水俣学講義 2019 年 9 月 26 日～2020 年 1 月 23 日 全 15 回

開催月日	タイトル	講師
9月26日	水俣学への招待:水俣病事件の歴史と現在	花田昌宣(熊本学園大学水俣学研究センター長)
10月3日	水俣病補償・救済制度と胎児性水俣病患者	田尻雅美(熊本学園大学水俣学研究センター)
10月10日	水俣病と戦後日本	小島敏郎(弁護士・顧問 早稲田リーガルコモンズ法律事務所)
10月17日	水俣病訴訟から学ぶ	松野信夫(くまもと法律事務所)
10月24日	2020 年、水銀条約で私たちの暮らしはどう変わるのか	中地重晴(熊本学園大学水俣学研究センター事務局長)
10月31日	水俣と私ーある弁護士と水俣のかかわり合い	金井塚康弘(なにわばし国際合同法律事務所)
11月7日	DVD 上映	
11月14日	水俣病事件取材して	大治浩之輔(フリージャーナリスト・元NHK社会部記者)
11月21日	行政不服審査請求からみる水俣病ーいま何が問われているか	井上ゆかり(熊本学園大学水俣学研究センター)
11月28日	チッソの労使関係史から見えてくるもの	石井まこと(大分大学経済学部教授)
12月5日	私にとっての水俣病	徳富一敏(水俣市南部もやい直しセンターおれんじ館館長)
12月12日	水俣病事件～人間の尊厳を取り戻す闘い、父川本輝夫からの伝言～	川本愛一郎(有限会社リハシップあい代表取締役社長)
12月19日	水俣病について	下地明友(熊本学園大学水俣学研究センター顧問)
1月9日	水俣に導かれて 41 年	芥川仁(写真家)
1月23日	水俣病事件の歴史とその反省:チッソという会社、労働者、そして水俣病	花田昌宣(熊本学園大学水俣学研究センター長)

Ⅲ.公開講座 <http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/seminar/seminar02/>

第 12 期 テーマ「九州・熊本の産業遺産と水俣」

期日：2015 年 10 月 6 日～11 月 3 日

会場：水俣市公民館

後援：九州産業考古学会、熊本産業遺産研究所、水俣市、水俣市教育委員会

参加者：延 321 人

開催月日	タイトル	講師
10月6日	熊本・九州の産業遺産とその意味	幸田亮一(熊本学園大学学長)
10月13日	産業遺産としての三池炭鉱の光と影	藤木雄二(大牟田・荒尾炭鉱のまちファンクラブ副理事長)

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

10月20日	北九州での産業遺産活用の取組み	市原猛志(九州大学百年史編集室助教・北九州市門司麦酒煉瓦館館長)
10月27日	水俣の産業遺産 旧日本窒素肥料(株)工業建物の意義	磯田桂史(熊本大学五高記念館客員教授)
11月3日	旧工場現地見学会	案内: 磯田桂史(熊本大学五高記念館客員教授)

案内チラシと11月3日の様子



第13期「熊本地震と水俣一地震への備えを考える」 期日：2016年9月27日～10月25日

会場：水俣市公民館

後援：水俣市

参加者：延 172 人

開催月日	タイトル	講師
9月27日	益城町の被災状況	和田要(熊本学園大学社会福祉学部)
10月4日	地域を創る—いま地域で生きるために大切なこと	天野和彦(福島大学つくしまふくしま未来支援センター)
10月11日	熊本地震からの復興と次の大震災にどう備えるか	河田恵昭(関西大学社会安全研究センター長)
10月18日	困難を抱える被災者への支援体験 熊本地震における大学避難所の取り組み	花田昌宣(熊本学園大学水俣学研究センター長)
10月25日	被災した障害者に対する支援とその取り組みから見えてくるもの	東俊裕(熊本学園大学・被災地障害者センターくまもと事務局長)

案内チラシと10月11日の様子



第14期「払っているだけの介護保険？はじめての一步」

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

期日：2017年9月26日～10月24日
 会場：水俣市公民館
 後援：水俣市、水俣市社会福祉協議会、水俣市教育委員会
 参加者：延 165 人

開催月日	タイトル	講師
9月26日	社会保険の発展と社会保障―日独比較の視点から―	松本勝明(熊本学園大学社会福祉学部)
10月3日	住民でつくる介護予防と生活支援～ささえりあ帯山の実践を通して～	那須久史(熊本市高齢者支援センターささえりあ帯山センター長)
10月10日	水俣市における介護保険―水俣市民と水俣患者の現状と課題	秋山真輝(社会福祉法人水俣市社会福祉協議会 社会活動専門員)
10月17日	認知症の人と家族を支える地域づくりを考える	黒木邦弘(熊本学園大学社会福祉学部)
10月24日	病と関わりをめぐって：認知症、アルコール依存症、うつ病―ケアの場は星座のごとく―	下地明友(熊本学園大学社会福祉学部・医師)

案内チラシと10月10日の様子





第15期「負の歴史をどう語り継ぐのか～次世代による負の遺産の伝承とは～」

期日：2018年10月2日～10月30日
 会場：水俣市公民館
 後援：水俣市教育委員会
 参加者：延 204 人

開催月日	タイトル	講師
10月2日	沖縄戦を語り継いでいく具体的な提案 ～“伝え手” となってもらおう平和学習実践～	国仲瞬(株式会社がちゆん代表取締役)
10月9日	四日市公害から学んだこと。今、私たちにできること	谷崎仁美(自然観察指導員三重連絡会事務局長)
10月16日	被爆二世として生きる	寺中正樹(山口被爆二世の会代表)
10月23日	あおぞら財団の活動と公害経験を伝えること	村松昭夫(あおぞら財団理事長・弁護士)
10月30日	水俣病を学び伝えていく～あやまちを繰り返さない主権者となるために～	高木実(水俣芦北公害研究サークル・熊本学園水俣学研究センター客員研究員)

案内チラシと10月2日の様子

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

10月の毎週火曜日公開講座

2018年
10月 2・9・16・23・30日
午後6時30分から8時30分
水俣市公民館 2階第1研修室にて
水俣市議会2丁目10-25

10/2 「学習意欲を盛り上げていく具体的な提案～『ひきこもり』となつてもらう早期学習実践～」
高村 麗 (株式会社から6人 代表取締役社長)

10/9 「4日市公費から学んだこと。今、私たちにできること」
谷崎仁美 (公益財団法人三宮建設会 専任役員)

10/16 「被爆二世として生きる」
寺中正雄 (山口敬通二世の会 代表)

10/23 「誰もが対顔の活動と公益経験を伝えること」
村松昭夫 (NPO財団 理事長)

10/30 「水俣病を学び伝えていく～あやまちを繰り返さないまねくとなるために～」
高木 実 (水俣-伊北公費研センター)

※受講はすべて無料です。
※全講座受講者には終了証を発行します。

主催 熊本学園大学水俣学術研究センター
後援 水俣市教育委員会

お問い合わせ・お申し込み
水俣学術研究センター
電話 0966-83-5010 (平日10時から16時まで)
水俣市議会2丁目7-13
TEL 0966-83-5000 FAX 0966-83-8883
e-mail 水俣学術研究センター@kumamoto-u.ac.jp

熊本学園大学 水俣学術研究センター 第十五期公開講座

負の歴史をどう語り継ぐのか

次世代による負の遺産の伝承とは

第16期『「ひきこもり」を知る・考える – 『個人の問題』で片づけてしまわないために –』

期日：2019年9月24日～10月15日

会場：水俣市公民館

後援：水俣市教育委員会

参加者：延 210人

開催月日	タイトル	講師
9月24日	「ひきこもり」が問いかけるもの	富田正徳(熊本県ひきこもり地域支援センター所長)・西田稔(同センター参事)
10月1日	国際調査で見えてきた「ひきこもり」の課題-なぜひきこもりは日本に多いのか？-	加藤隆弘(九州大学大学院医学研究院 精神病態医学 講師)
10月8日	児童・思春期外来を通して考える「ひきこもり」支援	城野匡(熊本学園大学社会福祉学部 教授・医師)
10月15日	水俣市社会福祉協議会におけるひきこもり支援	秋山真輝(水俣市社会福祉協議会 主任相談支援員)

案内チラシと10月15日の様子

2019年度 熊本学園大学水俣学術研究センター 第16期公開講座

「ひきこもり」を知る・考える

「個人の問題」で片づけてしまわないために

近年「ひきこもり」が、若年層や高齢層といった、センセーショナルな話題等との関連で語られることが多くなつて来られています。そして、それが「個人の問題」のみに留まらずに、社会や地域の課題へと発展し、一層深くまで影響を及ぼすことが多くなつて来られています。今年度の水俣学術研究センター公開講座では、「ひきこもり」を社会の課題として捉え直し、認知、他者との「思い込み」を整理し、私たちができることを、ひきこもりについて考え、学ぶために、多様な見方と切り口が身につけられる機会です。ぜひ参加ください。

2019年 9月24日 から10月15日 の 毎週火曜日
午後6時30分～8時30分 水俣市公民館 2階 第1研修室にて

9/24 「ひきこもり」が問いかけるもの
講師 西田 稔(熊本県ひきこもり地域支援センター 所長)
西田 稔(同センター 参事)

10/1 国際調査で見えてきた「ひきこもり」の課題 -なぜひきこもりは日本に多いのか？-
加藤 隆弘 九州大学大学院医学研究院 精神病態医学 講師

10/8 児童・思春期外来を通して考える「ひきこもり」
城野 匡 熊本学園大学社会福祉学部 教授

10/15 水俣市社会福祉協議会におけるひきこもり支援
秋山 真輝 水俣市社会福祉協議会 主任相談支援員

*受講はすべて無料です。全講座受講者には終了証を発行します。

お問い合わせ・お申し込み
水俣学術研究センター 水俣市議会2丁目 7-13
TEL 0966-83-5010 FAX 0966-83-8883
e-mail 水俣学術研究センター@kumamoto-u.ac.jp

主催 熊本学園大学 水俣学術研究センター / 後援 水俣市教育委員会 (後掲)

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

IV. 公開セミナー・シンポジウム <http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/seminar/seminar03/>

1. 第 23 回公開セミナー「第 6 回水俣病を『伝える』セミナー」

http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/seminar/active03_7676.html

期日：2016 年 3 月 2 日

会場：水俣市公民館

主催：熊本学園大学水俣学研究センター、水俣芦北公害研究サークル

後援：水俣市教育委員会、芦北町教育委員会、津奈木町教育委員会

参加者：延 35 名

内容	講師
どこに学び、なにを次世代に伝えるか 水俣病公式確認 60 年を迎える年「患者さんから学び伝える」必要性を考える	下田綾子、下田良雄

2. 水俣病公式確認 60 年国際シンポジウム「カナダ先住民の水俣病と水銀汚染」

http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/seminar/active03_8216.html

期日：2017 年 2 月 18 日～19 日

会場：熊本学園大学 14 号館 1411 教室（18 日）、水俣市公民館ホール（19 日）

参加者：延 170 人

開催月日	内容	報告者
2 月 18 日	第 1 部 カナダ先住民代表による報告	サイモン フォビスター(グラッシーナロウズ) マーヴィン リー マクドナルド(ヴァバシムーン) ルーシー フォビスター(グラッシーナロウズ)
	第 2 部 2014 年カナダ先住民居留地調査報告 カナダ先住民居留地の健康被害調査 居留地における環境中の水銀汚染状況 日本とカナダの水俣病問題の現状と課題	下地明友(熊本学園大学水俣学研究センター) 中地重晴(熊本学園大学水俣学研究センター事務局長) 花田昌宣(熊本学園大学水俣学研究センター長)

開催月日	内容	報告者
2 月 19 日	カナダ先住民代表による報告 日本とカナダの水俣病問題の現状と課題－ 2014 年調査を踏まえて 水俣からの報告 水俣病－日本とカナダ－ フロアからの発言、討論と交流	サイモン フォビスター(グラッシーナロウズ) マーヴィン リー マクドナルド(ヴァバシムーン) 花田昌宣(熊本学園大学水俣学研究センター長) 佐藤英樹(水俣病被害者互助会) 高岡滋(神経内科リハビリテーション協立クリニック)

3. 「カナダ・オジブエ先住民 水銀被害の歴史と現在－カナダの水俣病－」

期日：2017 年 2 月 22 日

会場：和光大学ポプリホール鶴川

主催：和光大学地域連携研究センター・熊本学園大学水俣学研究センター

後援：東京水俣病を告発する会、町田市教育委員会、川崎市教育委員会

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

報告者	サイモン フォビスター(グラスシーナロウズ) マーヴィン リー マクドナルド(ヴァバシムーン) ルーシー フォビスター(グラスシーナロウズ) 最首悟(和光大学名誉教授) 花田昌宣(熊本学園大学水俣学研究センター長) 森下直紀(和光大学)
-----	---

4. 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「水俣病の経験を将来に活かした地域構想と国際的情報発信のための水俣学研究拠点の構築」 中間報告

http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/seminar/active04_9901.html

開催日：2018年1月7日

会場：水俣市公民館ホール

	タイトル	報告者
第3班	水俣学アーカイブスを通じた知の集積と国際的情報発信拠点の形成	井上ゆかり(熊本学園大学水俣学研究センター)
第2班	環境負荷を克服し地域再構築にむけた評価および民主主義的合意形成をめざす社会的実証研究	中地重晴(熊本学園大学水俣学研究センター)
第1班	水俣病被害の多面性に着目した問題解決のための包括的研究と総括	花田昌宣(熊本学園大学水俣学研究センター)
外部評価	外部評価委員からのコメント	嘉田由紀子(前滋賀県知事)
		長谷川公一(東北大学大学院文学研究科教授)
		赤木洋勝(国際水銀ラボ取締役所長)

5. 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業成果報告シンポジウム「水俣病の現在と水俣学の創造」

<http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/seminar/seminar03/>

期日：2019年12月23日

会場：熊本学園大学14号館2階1422教室

タイトル	報告者
水俣と水俣病の将来を構想するー水俣学研究の到達点ー	花田昌宣(熊本学園大学水俣学研究センター長)
健康・医療・福祉相談から見える水俣病被害の実態と施策の課題ー被害者が求めるものー	田尻雅美(熊本学園大学水俣学研究センター研究員)
水俣の健康リスクと環境リスクを再検討する	中地重晴(熊本学園大学水俣学研究センター事務局長)
水俣市円卓会議の経緯とゼロ・ウェイスト政策	藤本延啓(熊本学園大学水俣学研究センター研究員)
水俣学アーカイブを活用した研究拠点形成に関する実証的研究ー水俣の知識インフラの拡充に向けてー	井上ゆかり(熊本学園大学水俣学研究センター研究員)
総合討論	

6. 若手研究セミナー <http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/seminar/seminar08/>

第4回「水俣病の現在と水俣学の試み」

期間：2015年9月4日～6日、全3日間

会場：熊本学園大学水俣学現地研究センター

受講者：13名

開催月日	内容	
9月4日	フィールドワーク	水俣がはじめての人向けの水俣現地案内
	セミナー ①	「水俣病 60年を水俣学はどう語るか：水俣病事件の歴史と現在の課題」 花田昌宣(熊本学園大学社会福祉学部/水俣学研究センター長)

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

	セミナー ②	「環境破壊を経験した地域社会の再構築のための新たな統治とその評価」 宮北隆志(熊本学園大学社会福祉学部/水俣学現地研究センター長)
	フィールドワーク準備ならびに受講者による発表と討論	
9月5日	特別セミナー	「不知火海総合学術調査の経験-研究者の立ち位置」 最首悟(和光大学名誉教授)
	フィールドワーク	水俣病被害者聞き取り
	フィールドワークまとめ	
	グループ報告と討論	
9月6日	セミナー③	「2020年目標と国際的な水銀規制-水銀条約の批准と日本の課題」 中地重晴(熊本学園大学社会福祉学部/水俣学研究センター事務局長)
	グループ討論	
	グループ報告と総合討論	

第5回「水俣病の現在と水俣学の試み」

期間：2017年9月8日～10日、全3日間

主会場：熊本学園大学水俣学現地研究センター

受講者：11名

開催月日	内容	
9月8日	フィールドワーク	水俣がはじめての人向けの水俣現地案内
	セミナー ①	「水俣病 61 年と水俣学の展開」 花田昌宣(熊本学園大学社会福祉学部/水俣学研究センター長)
	特別セミナー	「メディアからみた水俣病-反省と課題」 高峰武(熊本日日新聞社論説顧問)
	フィールドワーク準備ならびに受講者による発表と討論	
9月9日	セミナー ②	「水俣病患者の補償・救済制度～地域で生きるとは～」 田尻雅美(熊本学園大学水俣学研究センター)
	フィールドワーク	水俣病被害者聞き取り
	グループ報告と討論	
9月10日	セミナー③	「水俣の水銀汚染の現状と課題」 中地重晴(熊本学園大学社会福祉学部/水俣学研究センター事務局長)
	グループ報告と総合討論	

第6回「水俣病の現在と水俣学の試み」

期間：2019年9月6日～8日、全3日間

会場：熊本学園大学水俣学現地研究センター

受講者：8名

開催月日	内容	
9月6日	フィールドワーク	水俣がはじめての人向け水俣現地案内
	セミナー①	「いま、水俣はどうなっているか：研究の課題と展望」 花田昌宣(熊本学園大学社会福祉学部/水俣学研究センター長)
	セミナー②	「表出できない患者たちの水俣病被害-水俣病公式確認アンケート調査から」井上ゆかり(水俣学研究センター研究員)
	フィールドワーク準備ならびに受講者による討論と発表	
9月7日	特別セミナー	「水俣病被害救済問題と訴訟の現状」淡路剛久(立教大学名誉教授)
	フィールドワーク	水俣病被害者聞き取り

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

	グループ報告と発表	
9月8日	セミナー③	「水俣における水銀汚染の現状と水銀条約の日本と世界の課題」 中地重晴(熊本学園大学社会福祉学部/水俣学研究センター事務局長)
	まとめのグループ討論、報告と総合討論	

V. 研究会

1. 定例研究会 <http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/seminar/seminar09/>

〈2015年度〉第26回～第29回 2015年4月22日～2016年2月15日

〈2016年度〉第30回～第31回 2016年4月4日～11月28日

〈2017年度〉第32回～第35回 2017年6月5日～10月7日

回数	テーマ	報告者	開催年月日
第26回	水銀条約締結後の進捗状況と日本の課題及び小規模金採掘に伴う水銀汚染の現状－インドネシアにおける水銀汚染について	中地重晴(水俣学研究センター事務局長)	2015年4月22日
第27回	水俣市における「協働」の「失敗」－なぜ「水俣市円卓会議」全体が停滞したのか。その一方で、なぜ「ゼロ・ウェイスト」「茶飲み場」は続いているのか－	藤本延啓(水俣学研究センター研究員)	2015年6月24日
第28回	ミャンマーの現状について	大津定美(神戸大学名誉教授)	2015年12月17日
第29回	水俣学プロジェクトの今後の進め方について	花田昌宣(水俣学研究センター長)	2016年2月15日
第30回	水俣学研究プロジェクトの推進のために(本年度の調査・研究活動)	花田昌宣(水俣学研究センター長)	2016年4月4日
第31回	水俣地域周辺における水銀汚染について～みなまた地域研究会の調査から見えてきたこと～	中地重晴(水俣学研究センター事務局長)	2016年11月28日
第32回	水俣病研究の最近の動向について	花田昌宣(水俣学研究センター長)	2017年6月5日
第33回	不知火海の漁業・流通とメチル水銀暴露リスク	上野眞也(熊本大学政策創造研究教育センター)	2017年9月6日
第34回	地域研究の可能性と水俣学	藤倉達郎(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究)	2017年9月27日
第35回	オープンダイアログと水俣学	高木俊介(京都・たかぎクリニック)	2017年10月7日

2. 水俣病事件研究交流集会 <http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/seminar/seminar04/>

〈2015年度〉第11回

期日：2016年1月9日～1月10日、全2日間

会場：熊本県水俣市公民館ホール

参加者：延370人

開催月日	内容	報告者
1月9日	テーマ:特別セッション「水俣病60年の歴史の証言」 水俣病患者:初期の水俣病を経験してきた方 支援者:水俣で患者たちの訪問・支援活動を行っていた方 1940年チツソ入社の労働者。戦後のチツソと水俣病で倒れた 工員大矢二芳さんらを語る。	坂本フジエ(水俣病互助会) 堀田静穂 中村和博(元新日窒労組)

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

	<p>学校教師:1960年代学校の様子はどうだったか</p> <p>テーマ:「水俣病の歴史と現在」 岡本達明著『水俣病の民衆史』をめぐって 映像でみる胎児性患者 60年～金子雄二さんの場合～ 水俣病とは何か?その多面性及び距離感の差異に関する考察(試論)</p>	<p>梅田卓治(水俣市立久木野小学校/水俣・芦北公害研究サークル)</p> <p>矢作正(「技術と社会」資料館) 吉崎健(NHK 熊本放送局) 森枝敏郎(熊本県地域福祉実践研究会)</p>
1月10日	<p>テーマ:「水俣病の医学をめぐる今日の課題」 天草・非対象地域住民の神経症候</p> <p>最近行った疫学研究の報告</p> <p>初期新潟有機水銀中毒症からの考察</p> <p>テーマ:「水俣病をめぐる現在の課題」 松本健次さんに再審を!健次さんと水俣病</p> <p>生人からGS(グリンスポーツ)へ</p> <p>新潟水俣病における行政の責任</p> <p>水銀条約の批准に向けた水銀新法の成立と日本の課題</p> <p>水俣病差別研究の課題と方法</p>	<p>高岡滋(神経内科リハビリテーション協立クリニック)</p> <p>頼藤貴志(岡山大学大学院環境生命科学研究科) 斎藤恒、萩野直路、丸山公男(木戸病院、新潟青陵大学)</p> <p>金井塚康弘(大阪弁護士会松本健次さん再審弁護団) 飯嶋秀治(九州大学人間環境学研究院) 萩野直路(新潟水俣病第三次訴訟を支援する会) 中地重晴(熊本学園大学水俣学研究センター事務局長) 花田昌宣(熊本学園大学水俣学研究センター長)</p>

〈2016年度〉第12回

期日:2017年1月7日～1月8日、全2日間

会場:熊本県水俣市公民館ホール

参加者:延260人

開催月日	内容	報告者
1月7日	<p>テーマ:「水俣病原因企業と行政」 1970年代チツソ救済の経緯と論点</p> <p>水俣再生の歩み・25年間の検証</p> <p>御所浦島の採石場問題と不知火海の環境について</p> <p>テーマ:「水俣病の表象」 「公害と出会う場」としてのメディアを考える</p> <p>映像でみる胎児性患者 60年～坂本しのぶさんの場合</p>	<p>矢作正(「技術と社会」資料館) 森枝敏郎(熊本県地域福祉実践研究会) 大嶽弥生(水俣の暮らしを守る:みんなの会)</p> <p>池田理知子(国際基督教大学)五十嵐紀子(新潟医療福祉大学) 吉崎健(NHK 熊本放送局)</p>

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

	海外での水俣表象	飯嶋秀治(九州大学人間環境学研究院)
1月8日	<p>テーマ:「水俣病の医学」</p> <p>新潟水俣病行政訴訟控訴審での新潟市控訴理由書(1)における発症閾値問題と丸山論文に対する批判について</p> <p>一万人検診データから見る水俣病の実態</p> <p>水俣病における胎児性メチル水銀曝露</p> <p>「水俣病発症閾値 50ppm」の問題点</p> <p>テーマ:「不知火海周辺の水銀汚染の現在」</p> <p>八幡残渣プールと不知火海の水銀汚染を考える</p> <p>水俣市民の食品からの水銀摂取の現状について</p> <p>テーマ:「水俣病訴訟の現状と課題」</p> <p>新潟水俣病第三次訴訟・行政訴訟で問われていること</p> <p>熊本水俣病互助会訴訟控訴審と義務付け訴訟報告</p>	<p>丸山公男(新潟青陵大学)</p> <p>高岡滋(神経内科リハビリテーション協立クリニック)</p> <p>頼藤貴志(岡山大学大学院環境生命科学研究科)</p> <p>三浦洋(阪南中央病院)</p> <p>山下善寛(水俣の暮らしを守る:みんなの会)</p> <p>中地重晴(熊本学園大学水俣学研究センター事務局長)</p> <p>萩野直路(新潟水俣病第三次訴訟を支援する会)</p> <p>谷洋一(水俣病被害者互助会)</p>

〈2017年度〉第13回

期日:2018年1月6日~1月7日、全2日間

会場:水俣市公民館

参加者:延340人

開催月日	内容	報告者
1月6日	<p>セッション1</p> <p>カネミ油症と台湾油症の比較ー患者の症状、認定基準(日本)・患者登録(台湾)を中心にー</p> <p>カネミ油症未認定患者検診報告ー長崎県の一離島における健康障害ー</p> <p>水俣における周産期・乳児期の健康アウトカムの時間的トレンドについて</p> <p>セッション2</p> <p>ノーモア・ミナマタ第2次訴訟の報告</p> <p>水俣病の症候の特徴と中枢神経系の特性</p> <p>新潟水俣病行政訴訟高裁判決9名中9名認定!</p> <p>11月29日の新潟水俣病行政認定義務付け訴訟控訴審判決について</p> <p>国県の水俣病発症閾値 50ppm 論の誤りとその政治的意図</p>	<p>金星(長崎大学水産・環境科学総合研究科&日台油症情報センター)</p> <p>藤野紘(菊陽病院)</p> <p>頼藤貴志(岡山大学大学院環境生命科学研究科)</p> <p>中島潤史(ノーモア・ミナマタ第2次訴訟弁護団)</p> <p>高岡滋(神経内科リハビリテーション協立クリニック)</p> <p>高島章(新潟水俣病第三次訴訟・行政認定義務付け訴訟弁護団長)</p> <p>萩野直路(新潟水俣病第三次訴訟を支援する会)</p> <p>三浦洋(阪南中央病院)</p>

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

1月7日	セッション 3 水俣条約締約国会議ジュネーブ報告 新村苑子氏の『新潟水俣病短篇小説集』について カナダ水俣病事件の現状について 水俣病公式確認 60 年アンケート調査結果から	谷由布(水俣病協働センター) 後藤岩奈(新潟県立大学) 森下直紀(和光大学) 守弘仁志(熊本学園大学水俣学研究センター)
------	---	---

〈2018 年度〉第 14 回

期日：2019 年 1 月 12 日～13 日、全 2 日間

会場：水俣市公民館ホール

参加者：延 320 人

開催月日	内 容	報告者
1月12日	<p>テーマ：「水俣病の人文学」 新村苑子氏の『葦辺の母子 新潟水俣病短編小説集 II』について 漁村での 10 年 —見えたこと、見えなかったこと— 『暮らしの手帖』のなかの公害—1967 年秋号の特集記事が描く水俣病</p> <p>テーマ：「水俣病の医学」 胎児性水俣病患者さんの日常生活動作(ADL)の変化 水俣病互助会訴訟の医学的論点 不知火海・水俣対岸地域におけるメチル水銀の健康影響</p> <p>テーマ：「汚染サイトとしての水俣」 日本における水銀規制の現状と今後の課題 水俣川河口臨海部振興計画の問題点</p>	<p>後藤岩奈(新潟県立大学)</p> <p>飯嶋秀治(九州大学) 池田理知子(福岡女学院大学)</p> <p>頼藤貴志(岡山大学大学院環境生命科学研究科) 三浦洋(阪南中央病院) 高岡滋(神経内科リハビリテーション協立クリニック)</p> <p>中地重晴(熊本学園大学水俣学研究センター事務局長) 山下善寛(熊本学園大学水俣学研究センター)</p>
1月13日	<p>テーマ：「水俣病訴訟の今」 ノーモア・ミナマタ第 2 次訴訟の現状と課題 新潟の三次訴訟高裁判決の誤り、行政訴訟高裁判決と比較して</p> <p>テーマ：「水俣の過去と現在」 1968 年三資料(市民会議発足ビラ、恥宣言、政府見解)紹介 現地研究センター資料からみえる守山工場(日窒アセテート)労組と水俣との関係についての一考察 「もやい直し」の現代的意義を再考する</p> <p>テーマ：「水俣の歴史と水俣病」 史料でみる近世の水俣—船津村の位置づけをめぐって— 水俣避病院と水俣病差別</p>	<p>高峰真(ノーモアミナマタ弁護団) 萩野直路(新潟水俣病第三次訴訟を支援する会)</p> <p>矢作正(「技術と社会」資料館)</p> <p>大門信也・靱木優一郎(関西大学) 除本理史(大阪市立大学)、尾崎寛直(東京経済大学)</p> <p>矢野治世美(熊本学園大学水俣学研究センター) 花田昌宣(熊本学園大学水俣学</p>

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

	研究センター長)
--	----------

〈2019年度〉第15回

期日：2020年1月11日～12日、全2日間

会場：水俣市公民館

参加者：延 322人

開催月日	内 容	報告者
1月11日	テーマ：「水俣病を学ぶこと」 教育と水俣病－水俣病事件と水俣高校の公害教育（1980 年前後）－ 「水俣病を考える」から「水俣病から考える」へ	石井雅臣（水俣芦北公害研究サ ークル） 早乙女理（トヨタ自動車マリン事業 部）
	テーマ：「水俣病訴訟の今」 ノーモア・ミナマタ訴訟で明らかとなった貴重な事実	村山雅則（ノーモア・ミナマタ訴訟 弁護団）
	新潟水俣病第二次行政訴訟の闘い	萩野直路（新潟水俣病第二次行 政訴訟事務局）
	第二世代訴訟の現在	谷洋一（水俣病被害者互助会）
1月12日	テーマ：「水俣病の医学」 新潟水俣病における妊娠規制の諸問題 胎児期メチル水銀曝露に関する疫学研究のまとめ	佐藤静（大阪樟蔭女子大学） 頼藤貴志（岡山大学大学院医歯 薬学総合研究科疫学・衛生学分 野）
	日本神経学会「回答」の問題点	高岡滋（神経内科リハビリテーショ ン協立クリニック）
	テーマ：「水俣の今」 水俣川河口臨海部振興構想を考える 「水俣病」の将来を構想する：被害者の犠牲者非難の構図 からの脱出	中地重晴（熊本学園大学水俣学 研究センター事務局長） 花田昌宣（熊本学園大学水俣学 研究センター長）

3. 水俣病臨床研究会 <http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/seminar/seminar05/>

第6回水俣病臨床研究会 2017年1月8日

開催日：2017年1月8日（日）

会 場：熊本学園大学水俣学現地研究センター

テーマ	報告者
最高裁判決後の水俣病検診のまとめ	高岡滋（水俣病訴訟支援公害をなくする県民会議医師団）
水俣病発症閾値 50ppm の問題点	三浦洋（阪南中央病院 水俣病問題研究会）

第7回水俣病臨床研究会 2019年1月13日

開催日：2019年1月13日

会 場：熊本学園大学水俣学現地研究センター

テーマ	報告者
日本神経学会の水俣病に関する見解について	高岡滋（水俣病訴訟支援公害をなくする県民会議医師団）

4. タイ・ミャンマー科研（海外学術調査）研究会

タイ・マプタプット工業団地における被害調査

テーマ：「タイ・ミャンマーにおけるクロスボーダーな工業化・人権侵害と域外責務・環境民主主義」

期日：2017年10月16日

場所：熊本学園大学 14号館 3階 143C 教室

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

タイトル	報告者
環境を守る物語のカー東北タイの伝承と開発 ミャンマー・ティワラ経済特区の現状と課題	バンペン・チャイヤラック(タイ) 木口由香(メコン・ウォッチ事務局長、理事)

VI.国際シンポジウム・会議

1.“Minamata@60: Learning from Industrial Disaster towards Sustainable Society and Environment”、2016年9月10日、会場：タイ・チュラロンコン大学 Chaloem Rajakumari 60 Building7F ホール

http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/seminar/active03_8044.html

<http://earththailand.org/en/article/32>

2. セミナー “Myanmar’s SEZs: Opportunities or Threats to Local Communities”

主催：EARTH RIGHTS INTERNATIONAL、2016年2月23日、ミャンマー・ヤンゴン

<https://earthrights.org/blog/we-dont-want-to-be-another-minamata-seminar-brings-myanmars-sez-residents-to-the-forefront/>

3. フォーラム“The Second Forum on Myths and Facts: Gold Mining in Loie Province”

主催：EARTH、2017年6月29日、タイ・バンコク

4. 第3回「環境被害に関する国際フォーラム—水俣病・失敗の教訓を将来に活かす—

<http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/international/international03/>

期日：2019年2月22日・24日

会場：熊本学園大学 高橋守雄記念ホール（22日）、水俣市公民館ホール（24日）

後援：熊本市、水俣市

協力・後援：日本環境会議、福島大学うつくしまふくしま未来支援センター

開催月日	内容	
2月22日	記念講演	「公害被害の救済と地域再生の歴史的課題—水俣病を中心に— 宮本憲一(大阪市立大学名誉教授・日本環境会議名誉理事長)
	基調講演	「第3回国際フォーラムの課題：失敗の教訓を将来に活かす」 花田昌宣(熊本学園大学水俣学研究センター長)
	セッション1	—被害の現状報告とアピール—
	カナダ	「Wabaseemoong Then and Now」 マーヴィン リー マクドナルド(カナダ・ヴァバシムーン代表)
	韓国	「加湿器殺菌剤生存者の証言」 チョ スンミ(韓国・加湿器殺菌剤被害者)
		「加湿器殺菌剤の子どもを亡くした遺族の証言」 キム ドクジョン(韓国・加湿器殺菌剤被害者家族)
	中国	「淮河水汚染対策と癌の村の変遷」 フォ ダイシヤン(淮河水系生態環境科学研究センター)
	新潟	「日本政府は水俣病をメチル水銀中毒として扱っていない」 萩野直路(新潟・新潟水俣病第3次訴訟を支える会事務局)
	水俣	「裁判や運動の原動力」 佐藤英樹(水俣・第2世代訴訟団長、水俣病被害者互助会)
	セッション2	—問題解決に向けて—
	中国	「中国の環境被害と環境政策」 チョウ ギョクリン(南京大学教授)
	韓国	「生活化学製品の環境保健事件—加湿器殺菌剤惨事」 チェ イエヨン(大韓民国政府社会的惨事特別調査委員会副委員長)

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

	カナダ 熊本学園大学 新潟 総括	「Grassy Narrows Mercury Poisoning to December 2018」 ジュディ ダ シルバ(グラッシーナロウズ) 「『紛争』解決としての水俣病施策－終わることのできない水俣の今－」 田尻雅美、井上ゆかり(熊本学園大学水俣学研究センター研究員) 「阿賀野川流域のメチル水銀中毒調査」 斎藤 恒(新潟・元新潟勤労者医療生活協同組合木戸病院院長) 花田昌宣(熊本学園大学水俣学研究センター長)
2月24日	セッション3 熊本学園大学 韓国 中国 カナダ 新潟 水俣 セッション4	－健康被害と地域再生の取り組み－多様な道筋－ 「水俣とカナダの汚染サイトの修復について」 中地重晴(熊本学園大学水俣学研究センター事務局長) 「加湿器殺菌剤生存者の証言」 チョ スンミ(加湿器殺菌剤被害者) 「加湿器殺菌剤の子どもを亡くした遺族の証言」 キム ドクジョン(加湿器殺菌剤被害者家族) 「淮河水汚染対策と癌の村の変遷」 フォ ダイシャン(淮河水系生態環境科学研究センター) 「Grassy Narrows Mercury Poisoning to December 2018」 ジュディ ダ シルバ(グラッシーナロウズ) 「Wabaseemoong Then and Now」 マーヴィン リー マクドナルド(ヴァバシムーン代表) 「Grassy Narrows Community Health Survey」 ドナ マーグラー(モントリオール大学) 「長い道のりだった」 水澤洋(新潟水俣病患者) 「裁判や運動の原動力」 佐藤英樹(第2世代訴訟団長、水俣病被害者互助会) パネルディスカッション－将来の課題と国際連携－各国代表

2019
2/22(金)
9:30～18:30
熊本学園大学 高橋中環記念ホール

日本語 英語 韓国語 中国語 英語
※通訳機は会場に設置されています。通訳機が故障した場合は、通訳機が設置されていない会場へ移動していただく場合があります。
※通訳機が故障した場合は、通訳機が設置されていない会場へ移動していただく場合があります。
※通訳機が故障した場合は、通訳機が設置されていない会場へ移動していただく場合があります。

2/24(日)
9:30～17:00
水俣市公民館 2階ホール

日本語 英語 韓国語 中国語 英語
※通訳機は会場に設置されています。通訳機が故障した場合は、通訳機が設置されていない会場へ移動していただく場合があります。
※通訳機が故障した場合は、通訳機が設置されていない会場へ移動していただく場合があります。
※通訳機が故障した場合は、通訳機が設置されていない会場へ移動していただく場合があります。

*22日、24日ともに参加無料です

お問い合わせは
熊本学園大学
水俣学研究センター
096-364-8913
info@waterpollution.kumagaku.ac.jp
※本学1階国際会議場(1号館)7Fに国際会議場
※1号館国際会議場(1号館)7Fに国際会議場
※1号館国際会議場(1号館)7Fに国際会議場



環境被害に関する国際フォーラム
水俣病・失敗の教訓を
将来に活かす
3rd



法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

シヨップ」2019年2月25日、水俣市公民館第一研修室

http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/seminar/seminar03_10294.html

6.1st Japan - ASEAN Medical Seminar on Human Health Impact of Heavy Metals,
Hasanuddin University, Makassar, Indonesia, May 3st

<https://www.chikyu.ac.jp/srirep/his1/>

7. 2nd Japan - ASEAN Medical Seminar on Human Health Impact of Heavy Metals, Damhil
Hotel Ballroom, Gorontalo, Indonesia May 5st

<https://www.chikyu.ac.jp/srirep/his2/>

Ⅶ. その他

1. 第3期水俣学研究プロジェクト・キックオフ研究会、2016年8月4日

2. 水俣病公式確認60年朝日新聞社との合同アンケート調査検討会

〈アンケート内容検討会〉

開催日：2017年5月22日、7月3日、9月7日、10月23日、11月6日、11月25日、12月12日、12月25日、2018年2月21日

〈自由記述転記作業〉

日時：2017年11月6日～7日

〈水俣病公式確認60年朝日新聞社との合同アンケート調査検討会〉

開催日：2018年4月2日、5月12日、6月4日、7月2日、8月24日、9月14日、1月31日

<これから実施する予定のもの>

14 その他の研究成果等

1. チッソ労働運動史研究会 <http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/seminar/seminar07/>

〈2015年度〉第27回～29回 2015年8月19日～2016年3月31日

〈2016年度〉第30回～32回 2016年6月18日～2016年12月28日

〈2017年度〉第33回～36回 2017年5月28日～2018年3月31日

〈2018年度〉第37回～38回 2018年7月5日～12月19日

〈2019年度〉第39回～42回 2019年4月3日～11月24日

内容	開催年月日
第27回 65年から72年までの安賃後の合理化進行下における労使関係	2015年8月19日
第28回 書籍刊行にむけた各担当者社会政策学会での報告	2015年12月19日
第29回 書籍刊行にむけた各担当者社会政策学会での報告	2016年3月31日
第30回 岡本達明『水俣病の民衆史』日本評論社、2015年を読み解く	2016年6月18日
第31回 『チッソ労使の労働運動・経営・民衆・社会史』刊行検討	2016年8月19日
第32回 『チッソ労使の労働運動・経営・民衆・社会史』書籍刊行にむけた各編者の報告	2016年12月28日
第33回 書籍刊行にむけた各担当者の進捗状況報告	2017年5月28日
第34回 2018年書籍刊行にむけた研究員からの進捗状況報告	2017年10月6日
第35回 2018年書籍刊行にむけた各研究員からの進捗状況報告	2017年12月26日
第36回 2018年書籍刊行にむけた各研究員からの進捗状況報告	2018年3月31日
第37回 来年度刊行予定の新日窒労組とチッソの労使関係史書籍刊行にむけて	2018年9月23日
第38回 各担当者から書籍刊行のための進捗状況報告	2019年1月5日
第39回 書籍刊行にむけた各担当者の進捗状況報告	2019年4月13日
第40回 書籍刊行にむけた各担当者の進捗状況報告	2019年6月29日
第41回 書籍刊行にむけた各担当者の進捗状況報告	2019年8月28日
第42回 書籍刊行にむけた各担当者の進捗状況報告	2019年11月24日

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

2.水俣・芦北地域戦略プラットフォーム

<http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/seminar/seminar06/>

〈2015年度〉第39回～40回 2015年6月29日～2016年3月28日

〈2016年度〉第41回 2016年12月23日

	テーマ	開催年月日
第39回	「『環境首都水俣』創造事業を考える」	2015年6月29日
第40回	「みなまる弁当はなぜお弁当屋さんなのか」	2016年3月28日
第41回	「自然産業につながる人々④-捕る人・つなぐ人・食べる人-」	2017年1月16日

3.天草環境会議 <http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/seminar/seminar11/>

〈2015年度〉第32回 2015年7月11日～11日、全2日間

〈2016年度〉第33回 2016年7月9日～10日、全2日間

〈2017年度〉第34回 2017年7月8日～9日、全2日間

〈2018年度〉第35回 2018年7月7日～8日、全2日間

〈2019年度〉第36回 2019年7月13日～14日、全2日間

4.水俣病事件資料集編纂委員会

〈2015年度〉第2回～12回 2015年5月20日～2016年3月29日

〈2016年度〉第13回～21回 2016年5月19日～2017年3月27日

〈2017年度〉第22回～30回 2017年4月26日～2018年3月12日

〈2018年度〉第31回～36回 2018年5月7日～2019年1月21日

〈2019年度〉第37回～36回 2019年5月20日～9月15日

5.企業（school）との連携によるインターネット授業 <https://school.jp/class/2534>

2015年度コミュニケーション型動画学習サービス「現代に生きる水俣学」

2015年7月6日「終わりなき水俣病の60年」花田昌宣

2015年7月13日「失敗から得た教訓」宮北隆志

2015年7月20日「世界に広がる水銀汚染と水銀条約」中地重晴

6. 海外研究者の受け入れ

<http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/international/international04/>

〈2015年度〉

韓国緑の忠南、台湾国立中正大学、茗溪学園中学、日韓 PAOT ワークショップ

〈2016年度〉

シリポーン氏（メーファールアン大学、タイ）、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科、スリチャイ氏（チュラロンコン大学、タイ）

〈2017年度〉

チャスンギ氏（朝鮮大学）、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科、アメリカ・フランスからの取材

〈2018年度〉

パリ13大学、パスカル・プチ氏（パリ13大学経済学部）、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科、韓国環境保健市民センター、大韓民国政府社会的惨事特別調査委員会、ソウル大学、放送通信大学（韓国）、江原大法学専門大学院（韓国）、カトリック大学（韓国）

〈2019年度〉

中国科学院、シリポーン氏・ワンワリー氏・三宅氏（メイファールグ大学、タイ）、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

7.その他 <http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/international/international04/>

〈2015年度〉

年間を通じての JICA 研修、水俣環境アカデミーキック・オフシンポジウム水俣エクスカージョン、日本コミュニケーション学会九州支部、甲南女子高校、新潟大学、済々黌 SGH、私学教育研修会一斉研修中学部会などの水俣病問題に関する研修、講義、案内などを大学、水俣で実施した。また、畑育郎水俣案内、環境省環境調査研修所、東京経済大学など大学の研究者による聞き取りや資料閲覧を大学・水俣で受け入れた。熊本日日新聞社新任職員水俣病概要研修、大阪人権研究所水俣

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

調査協力も実施した。

〈2016年度〉水俣病に関する研修の受け入れ

年間を通じての JICA 研修の受け入れ。法政大学、佐賀大学、九州大学、大分大学、大阪市立大学、鳥取大学、京家政学院大学などの研究者による聞き取りや資料閲覧の受け入れ、東京医学芸大学、北九州大、甲南女子高校、新潟大学、岡山大学、京都大学、北九州エコツアー神奈川大学、国際基督教大学水俣高校スーパーグローバル高校研修、人吉中原小学校など水俣病問題に関する研修、講義、案内などを大学、水俣で実施した。

〈2017年度〉

年間を通じての JICA 研修、大学の研究者による聞き取りや資料閲覧。福岡女子大学、法学研究者、神戸学院大学、水平社博物館長、中央大学、保険医協会、日本消費者連盟関西グループ、新潟大学、アスベスト患者家族の会、海外環境協力センター、愛媛大学社会共創学部、慶応義塾大学環境情報学部、日本 NUS など水俣病問題に関する研修、講義、案内などを大学、水俣で実施した。。

〈2018年度〉

海外から、フランスのダンスセラピスト、フィリップ・シェール氏の水俣現地案内、患者達との面談などを行い、研究調査交流の広がりを作ることが出来た。とくに JICA や海外の研究機関からの研究や訪問調査を積極的に受け入れた。

年間を通じて様々な研修を受け入れており、JICA、明治大学中学高等学校、ILO 職員、国立環境研究所、福岡県立大学、福岡女子大学、神奈川学園高校、龍谷大学舟橋ゼミ、関西大学大門ゼミ、甲南女子高校、かがやきの森支援学校、総合地球環境学研究所、新潟大学、京都大学、京都造形芸術大学、京都文教大学の大学などの水俣病問題に関する研修、講義、案内などを大学、水俣で実施した。また、法政大学、佐賀大学、大分大学、大阪市立大学、福岡女子大学、東京家政学院大学、東京学芸大学、新潟大学、京都大学など大学の研究者による聞き取りや資料閲覧に協力した。

〈2019年度〉

年間を通じての JICA 研修、福島イノベーション・コースト構想推進機構、特別セミナー中国講師（中国科学院）水俣研修、インクルーシブ教育研究所水俣研修、学習院大学、京都造形芸術大学、群馬大学附属病院、甲南女子高校、新潟大学、部落解放・人権政策確立要求佐賀県実行委員会「水俣フィールドワーク」、福岡女学院大学池田ゼミ、福岡女子大学、埼玉大学有機農業研究会などの水俣病問題に関する研修、講義、案内などを大学、水俣で実施した。海外からフランスのダンスセラピスト、フィリップ・シェール氏、ドイツ Bernd Braunlich 氏、Marianna Christofides 氏、また、大学の研究者による聞き取りや資料閲覧に協力した。

8.2019年度熊本学園大学特別公開セミナー「中国の環境問題の現在－重金属と健康への影響－」

期日：2019年8月3日（土）

会場：熊本学園大学14号館1411教室

内 容	
基調講演	「大気汚染：石炭燃焼に伴うフッ素汚染と水俣病との比較」 鄭宝山氏（中国科学院地球化学研究所 環境地球化学国家重点研究室 名誉教授）
報告	「温室効果ガスの活用：温室効果ガス二酸化炭素の地質学的回収利用と貯蔵」 王燕氏（中国科学院岩土力学研究所、地質構造工学国家重点研究室 助教授）
	「赤潮：太湖の藍藻類（シアノバクテリア）の繁殖による飲用水への影響」 朱広偉氏（中国科学院南京地理学・湖沼学研究所 教授）
	「チベット高原のヒ素：チベット高原におけるヒ素汚染と健康影響」 李社紅氏（中国科学院地球化学研究所、環境地球化学国家重点研究室 教授）
	「セレン土壤汚染：土壌中高濃度セレン含有地域におけるセレンの化学形態と健康リスク評価」
	「水俣湾に埋め立てられた水銀と水銀条約の課題」 中地重晴（熊本学園大学水俣学研究センター事務局長）

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

15 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項及び対応

<「選定時」に付された留意事項>

該当なし

<「選定時」に付された留意事項への対応>

該当なし

<「中間評価時」に付された留意事項>

該当なし

<「中間評価時」に付された留意事項への対応>

該当なし

(様式2)

法人番号	431002
プロジェクト番号	S1591010L

17 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備考
		法人負担	私学助成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	その他()	
平成27年度	施設	0						【科学研究費助成事業】水俣病被害とその影響をふまえた水俣地域市民社会の再生に関する総合的研究「花田昌宣、水俣学研究文献データベース」花田昌宣、「タイ東部臨海地域における工業化・地域社会の容容と健康の社会的決定要因に関する研究」宮北隆志、「不法投棄に関する社会史研究―豊島地域社会に対するマイクロマクロリソンの視点から」藤本延啓、「生の視点からとらえた胎児性水俣病当事者の社会福祉的ニーズの表出と実現に関する研究」田尻雅美、「水俣病多発漁村住民の水銀暴露と健康障害および補償給付の連環の実証的研究」井上ゆかり
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	32,089	13,097	5,892			13,100	
平成28年度	施設	0						【科学研究費助成事業】水俣病被害とその影響をふまえた水俣地域市民社会の再生に関する総合的研究「花田昌宣、水俣学研究文献データベース」花田昌宣、「タイ東部臨海地域における工業化・地域社会の容容と健康の社会的決定要因に関する研究」宮北隆志、「不法投棄に関する社会史研究―豊島地域社会に対するマイクロマクロリソンの視点から」藤本延啓、「生の視点からとらえた胎児性水俣病当事者の社会福祉的ニーズの表出と実現に関する研究」田尻雅美、「水俣病多発漁村住民の水銀暴露と健康障害および補償給付の連環の実証的研究」井上ゆかり、「災害復興段階にあわせた生活再建過程のモデル化に関する学術的研究」高木亨
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	32,578	14,862	6,216			11,500	
平成29年度	施設	0						【科学研究費助成事業】水俣病被害とその影響をふまえた水俣地域市民社会の再生に関する総合的研究「花田昌宣、水俣学研究文献データベース」花田昌宣、「大規模地震下緊急時支援とインクルーシブな避難所の設置・運営・収束の経験と意義」水俣学研究文献データベース「花田昌宣、「タイ・ミャンマーにおけるクロスボーダーな工業化・人権侵害と域外責務・環境民主主義」宮北隆志、「生の視点からとらえた胎児性水俣病当事者の社会福祉的ニーズの表出と実現に関する研究」田尻雅美、「水俣病多発漁村住民の水銀暴露と健康障害および補償給付の連環の実証的研究」井上ゆかり、「災害復興段階にあわせた生活再建過程のモデル化に関する学術的研究」高木亨
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	36,455	12,155	8,000			16,300	
平成30年度	施設	0						【科学研究費助成事業】大規模地震下緊急時支援とインクルーシブな避難所の設置・運営・収束の経験と意義「水俣学研究文献データベース」花田昌宣、「タイ・ミャンマーにおけるクロスボーダーな工業化・人権侵害と域外責務・環境民主主義」宮北隆志、「生の視点からとらえた胎児性水俣病当事者の社会福祉的ニーズの表出と実現に関する研究」田尻雅美、「水俣病多発漁村住民の水銀暴露と健康障害および補償給付の連環の実証的研究」井上ゆかり、「ダーツワームを援用した災害記憶ならびに復興記憶の継承手法確立」高木亨
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	38,597	16,947	9,250			12,400	
平成31年度	施設	0						【科学研究費助成事業】大規模地震下緊急時支援とインクルーシブな避難所の設置・運営・収束の経験と意義「水俣学研究文献データベース」花田昌宣、「タイ・ミャンマーにおけるクロスボーダーな工業化・人権侵害と域外責務・環境民主主義」宮北隆志、「生の視点からとらえた胎児性水俣病当事者の社会福祉的ニーズの表出と実現に関する研究」田尻雅美、「第三水俣病事件は何か？真相解明と資料の収集・整理で歴史的教訓を得る」高峰武、「ダーツワームを援用した災害記憶ならびに復興記憶の継承手法確立」高木亨
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	29,965	13,155	8,810			8,000	
総額	施設	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	
	設備	0	0	0	0	0	0	
	研究費	169,684	70,216	38,168	0	0	61,300	
総計	169,684	70,216	38,168	0	0	61,300		

法人番号	431002
------	--------

18 施設・装置・設備の整備状況 (私学助成を受けたものはすべて記載してください。)

《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。)(千円)

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
事務局事務室	H17年度	33.20					
文献資料室	H17年度	33.20					
データベース室	H28年度	33.20					
資料整理作業室	H17年度	40.00					
書庫	H17年度	40.00					
水俣学現地研究センター	H17年度	310.51			24,305		
資料室	R元年度	33.20					

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

_____ m²

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。)

(千円)

装置・設備の名称	整備年度	型 番	台 数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)				h			
(研究設備)							
複合機	H27	Canon C2218F-V (IR-ADVC2218)	1	8/day h	448	224	私学助成
プリンタ	H28	Canon Satera LBP 9900Ci	1	8/day h		295	科研費
コピー機	H29	RICOH MP5055 SP	1	8/day h		585	科研費
書架	H29	6F75FR Z269	7	8/day h		394	科研費
書架	H30	6F75FR,6J76FL Z269	3	8/day h		130	科研費
書架	H30	6F75FR,6J76FL,6J76GF Z269	19	8/day h	869	435	私学助成
(情報処理関係設備)							
パソコン	H29	HP Slimline 270-p014jp DT PC JPN2	1	8/day h		100	科研費
パソコン	H29	CF-S26 HDCVS パナソニックLet's note	1	8/day h		182	科研費
パソコン	H29	HP Slimline 270-p014jp Y0000AA-AAIW	1	8/day h		90	科研費
パソコン	R元	HP Slim Desktop 290-P0108.jp 6DW23AA-AAGR	3	8/day h		240	科研費

19 研究費の支出状況

(千円)

年 度	平成 27 年度	積 算 内 訳		
小 科 目	支 出 額	主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消耗品費	1,159	事務用品		ファイル、トナーカートリッジ、CD、DVD-RW等文具
光熱水費	593	電気・水道代		現地研究センター電気、水道
通信運搬費	793	郵送料・回線料		切手、宅配料金、インターネット接続費
印刷製本費	3,360	印刷費		研究紀要、ブックレット、通信、チラシ等印刷
旅費交通費	2,930	出張費		研究員国内外調査・研究、招聘旅費
報酬・委託料	2,773	委託費・謝礼		分析料、講師謝礼
(賃借料)	1,896	現地センター賃借料		現地研究センター賃借料
(消耗図書)	23	新聞、雑誌		新聞、雑誌
(教具費)	24	電子機器		外付けハードディスク
計	13,551			
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)	3,496	アルバイト 臨時職員	2,290 1,206	時給 790円、年間時間数 1,699時間 実人数 1人
教育研究経費支出 計	3,496			
設 備 関 係 支 出 (1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	448	機器備品		複合機
図 書	201			
計	649			
研 究 ス タ ッ プ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント	284			学内1人
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費				
計	284			学内1人

法人番号	431002
------	--------

年 度		平成 28 年度	
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消耗品費	1,325	事務用品	ファイル、トナーカートリッジ、CD、DVD-RW等文具
光熱水費	592	電気・水道代	現地研究センター電気、水道
通信運搬費	819	郵送料・回線料	切手、宅配料金、インターネット接続費
印刷製本費	4,526	印刷費	紀要、叢書、ブックレット、通信等印刷
旅費交通費	3,179	出張費	研究員国内外調査・研究、招聘旅費
報酬・委託料	2,705	委託費・謝礼	分析料、講師謝礼
(賃借料)	1,829	現地センター賃借料	現地研究センター賃借料
(消耗図書)	14	新聞、雑誌	新聞、雑誌
(教具費)	37	教具	デジタル台計り、スチール台車
計	15,026		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	4,094	アルバイト 臨時職員	時給 790円、年間時間数 2,876時間 実人数 1人
教育研究経費支出 計	4,094		
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品 図 書	168		
計	168		
研 究 ス タ ッ プ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント ポスト・ドクター 研究支援推進経費 計	585		学内1人 学内1人

年 度		平成 29 年度	
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消耗品費	1,268	事務用品	ファイル、トナーカートリッジ、CD、DVD-RW等文具
光熱水費	651	電気・水道代	現地研究センター電気、水道
通信運搬費	1,092	郵送料・回線料	切手、宅配料金、インターネット接続費
印刷製本費	2,461	印刷費	通信、チラシ、ポスター等印刷
旅費交通費	2,696	出張費	研究員国内外調査・研究、招聘旅費
報酬・委託料	4,819	委託費・謝礼	講師謝礼、分析料
(賃借料)	1,816	現地センター賃借料	現地研究センター賃借料
(消耗図書)	10	新聞、雑誌	新聞、雑誌
(教具費)	27	教具	デジタル台計り、スチール台車
計	14,840		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	3,019	アルバイト 臨時職員	時給 790円、年間時間数 2,223時間 実人数 1人
教育研究経費支出 計	3,019		
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品 図 書	459		
計	459		
研 究 ス タ ッ プ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント ポスト・ドクター 研究支援推進経費 計	744		学内1人 学内1人

法人番号	431002
------	--------

年 度		平成 30 年度	
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消耗品費	1,564	事務用品	ファイル、コピー用紙、CD、DVD-RW等文具
光熱水費	629	電気・水道代	現地研究センター電気、水道
通信運搬費	1,524	郵送料・回線料	切手、宅配料金、インターネット接続費
印刷製本費	4,984	印刷費	紀要、ブックレット、通信、報告書、予稿集等印刷
旅費交通費	5,342	出張費	研究員国内外調査・研究、招聘旅費
報酬・委託料	4,352	委託費・謝礼	分析料、講師謝礼、資料脱酸性化処理
(賃借料)	1,816	現地センター賃借料	現地研究センター賃借料
(消耗図書)	11	新聞、雑誌	雑誌
(教具費)	0	教具	
計	20,222		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	3,548	アルバイト 臨時職員	2,020 1,528
教育研究経費支出			時給 820円、年間時間数 2,464時間 実人数 1人
計	3,548		
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品			
図 書	151		
計	151		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	772		学内1人
ポスト・ドクター			
研究支援推進経費			
計	772		学内1人

年 度		平成 31 年度	
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消耗品費	1,101	事務用品	ファイル、コピー用紙、CD、DVD-RW等文具
光熱水費	619	電気・水道代	現地研究センター電気、水道
通信運搬費	1,748	郵送料・回線料	切手、宅配料金、インターネット接続費
印刷製本費	5,237	印刷費	紀要、ブックレット、資料叢書、通信等印刷
旅費交通費	3,066	出張費	研究員国内外調査・研究、招聘旅費
報酬・委託料	4,546	委託費・謝礼	講師謝礼、分析料、資料脱酸性化処理
(賃借料)	1,778	現地センター賃借料	現地研究センター賃借料
(消耗図書)	12	新聞、雑誌	新聞、雑誌
(教具費)	1,038	教具	物品棚、モノフィラメント知覚テスター等
計	19,145		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	2,984	アルバイト 臨時職員	1,819 1,165
教育研究経費支出			時給 820円、年間時間数 2,219時間 実人数 1人
計	2,984		
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品			
図 書	73		
計	73		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	776		学内1人
ポスト・ドクター			
研究支援推進経費			
計	776		学内1人

添付資料

表 1 寄贈資料

表 2 熊本学園大学水俣学研究センター所蔵資料データベース一覧
(2015-2019 年度)

表 3 資料閲覧来館者数一覧

表1 寄贈資料

年度		資料名	点数
2015	1	関西訴訟旧蔵資料	189+段ボール3
	2	井上英次熊本県市議資料	30
	3	田上誠熊本学園大学職員資料	6
	4	新日窒労組旧蔵資料 追加(簿冊)	3
	5	馬場昇旧蔵資料	段ボール46
	6	水俣農作業道具現物資料	2
	7	名古屋告発する会旧蔵資料	段ボール4
2016	8	週刊金曜日	段ボール20
	9	熊本市在住1975年生まれ毛髪現物資料 18年間分	90
	10	堀田宣之旧蔵資料	段ボール15
	11	新日窒労組旧蔵資料 追加(現物)	2
	12	新日窒労組旧蔵資料 追加(現物)	1
	13	書籍	1
	14	篠倉満熊大法学部教授旧蔵資料	18
	15	飯尾豊旧蔵資料	段ボール8
	16	熊本県高等学校教職員組合旧蔵資料	段ボール150
	17	新日窒労組旧蔵資料 追加(写真)	11
2017	18	新日窒労組旧蔵資料 追加(現物・ビデオ)	6
	19	新日窒労組旧蔵資料 追加(現物)	10
	20	土呂久調査資料	31
	21	書籍	22
	22	原田正純映像資料	1
	23	新日窒労組旧蔵資料 追加(簿冊)	1
	24	水俣戦友会等資料	5
	25	野田工場退職者旧蔵資料 (現物・写真・8mm)	118
2018	26	野田工場退職者旧蔵資料 (簿冊・現物)	27
	27	深井純一旧蔵資料	段ボール86
	28	新日窒労組旧蔵資料 追加(現物)	1
	29	伊藤蓮雄旧蔵資料(フィルム)	3
	30	野田工場退職者旧蔵資料 (簿冊)	1
	31	新日窒労組旧蔵資料 追加(ビデオ)	2
	32	石井雅臣収集資料	2
	33	石田博文収集資料 追加(現物)	4
	34	福島大学未来うつくしまセンター機関紙	2
2019	35	水俣湾関連資料	15
	36	高峰武収集資料(第3水俣病関連)	4
	37	石田博文収集資料 追加(簿冊)	6
	38	堀田宣之旧蔵資料 追加	段ボール4
	39	興南小学校資料	1
	40	石田博文収集資料 追加(写真)	123
	41	砂田明旧蔵資料	2

表2 熊本学園大学水俣学研究センター所蔵資料データベース一覧(2015-2019年度)

資料名	公開年度	メタデータ 形態分類別																	画像・音声データ		
		A.簿冊	B.書籍	C.パンフ	D.一紙	細目録	さいれん 細目録	E.写真	G.現物	A.冊子・ 書籍	B.パンフ	C.一紙	D.地図	E.物品	F.写真ネ ガ	G.写真紙 焼	H.カセット テープ	I.ビデオ テープ	画像ファイル (資料点数)	音声ファイ ル数 (資料点 数)	
新日本窒素労働組 合旧蔵資料	2015							38,763												3,255	
	2016					5,044	431	37												7,129	
	2017																			6,859	
	2018					3,409	698	3												3,946	
	2019																			6,986	
最首悟旧蔵資料	2015																			24	
松本勉旧蔵資料	2017									15	3	39	157	16			507				3
	2018																173			102	15
	2019																			224	15
鰐淵健之旧蔵資料	2016									51	17	60								128	
馬場昇旧蔵資料	2017									97	33	600									
堀田宣之旧蔵資料	2017									523	44	69									
水俣教組旧蔵資料	2018									959	365	651	2								
名古屋水俣病を告発 する会旧蔵資料	2019									275	78	269		1		1					
計		0	0	0	0	8,453	1,129	38,803	0	1,920	540	1,688	159	17	0	1	680	0	28,653	33	

表3 資料閲覧来館者数一覧

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
水俣学研究センター(熊本市)	1	5	1	2	5
水俣学現地研究センター(水俣市)	10	25	15	29	15
総計	11	30	16	31	20